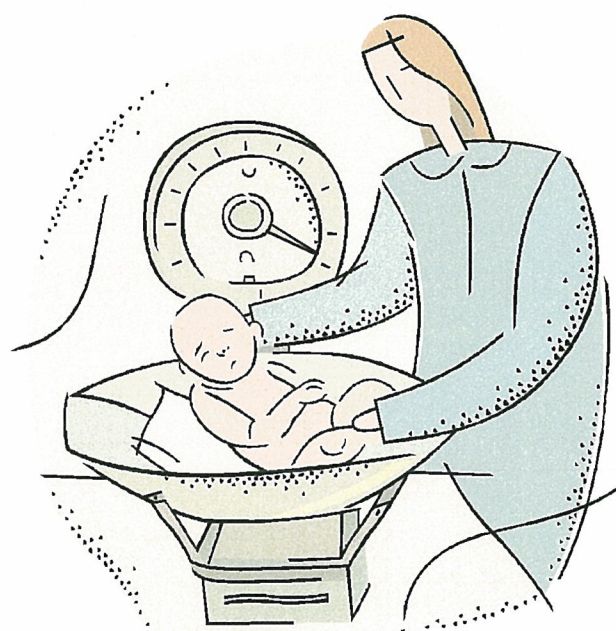


愛知県医師会女性会員アンケート 結果報告書



平成23年11月

愛 知 県 医 師 会
男 女 共 同 参 画 委 員 会

調 査 概 要

1. 調査の目的

女子医学生がますます増える中で、その能力を十分発揮し、継続して就業できる環境整備の重要性は喫緊の課題であることから、医師会に加入している女性会員にアンケートを実施し、得られた結果を女子医学生や若い女性医師の今後の生活設計に役立てる資料として提供することを目的とする。

2. 実施主体

愛知県医師会男女共同参画委員会

3. 調査対象

愛知県医師会女性 1,326名（A会員：488名 B会員：838名）

4. 調査期間

平成23年7月7日～8月12日

5. 有効回収

623名（A会員：303名 B会員：302名 不明：18名）

6. 回 収 率

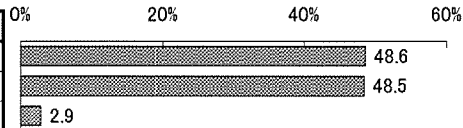
47.0%（A会員：62.1% B会員：36.1%）

調 査 結 果

1. 会員の種別をお答えください。(SA)

会員数では「A会員」が488名、「B会員」が838名であるが、回収数構成比としては回収率が62.1%の「A会員」が48.6%、「B会員」が48.5%とほぼ同スコアとなっている。

カテゴリー	件数	構成比
A会員	303	48.6
B会員	302	48.5
無回答	18	2.9
調査数	623	100.0



※会員の種別×開業医内訳

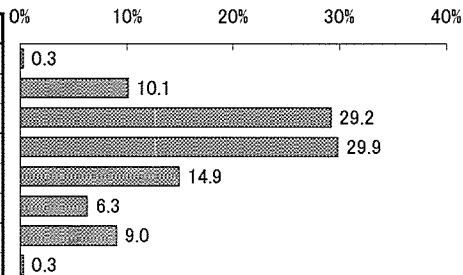
会員種別を開業医内訳別にみると、開設者は「A会員」が95.0%を占め、「B会員」は3.3%となっている。また、開設者以外は「A会員」が25.2%であるのに対し、「B会員」が73.0%を占めている。

		調査数	A会員	B会員	無回答
上段：実数 下段：横%					
全体		623 100.0	303 48.6	302 48.5	18 2.9
開業医内訳	開設者	240 100.0	228 95.0	8 3.3	4 1.7
	開設者以外(親族等が開設者)	115 100.0	29 25.2	84 73.0	2 1.7
	無回答	25 100.0	20 80.0	3 12.0	2 8.0

2. 年齢等をお答えください。(SA)

年代別にみると、「50歳代」が29.9%、「40歳代」が29.2%、「60歳代」が14.9%、「30歳代」が10.1%などとなっており、「40～50歳代」で59.1%、そして「30～60歳代」では84.1%を占める。

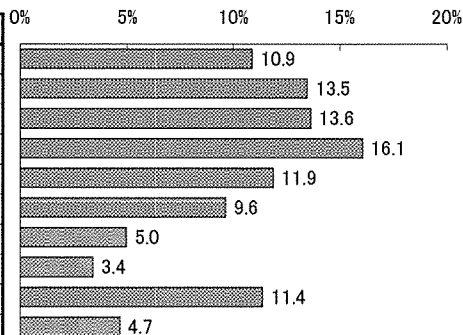
カテゴリー	件数	構成比
20歳代	2	0.3
30歳代	63	10.1
40歳代	182	29.2
50歳代	186	29.9
60歳代	93	14.9
70歳代	39	6.3
80歳以上	56	9.0
無回答	2	0.3
調査数	623	100.0



※卒業後年数(SA)

卒業後の年数は、「25～29年」が16.1%で最も高く、続いて「20～24年」が13.6%、「15～19年」が13.5%、「30～34年」が11.9%、「50年以上」が11.4%の順、「15～34年」で55.1%を占めている。

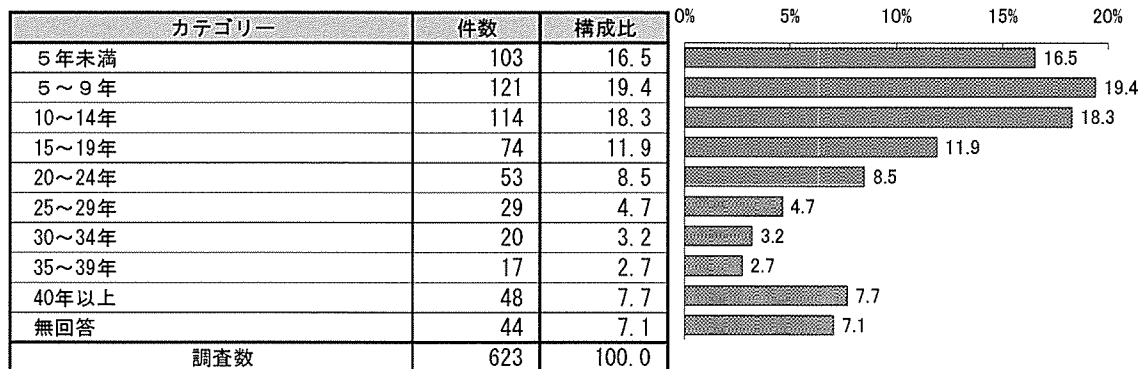
カテゴリー	件数	構成比
15年未満	68	10.9
15～19年	84	13.5
20～24年	85	13.6
25～29年	100	16.1
30～34年	74	11.9
35～39年	60	9.6
40～44年	31	5.0
45～49年	21	3.4
50年以上	71	11.4
無回答	29	4.7
調査数	623	100.0



すべての会員に対するアンケート

※現医療機関の勤続年数 (SA)

現医療機関での勤続年数は「5～9年」が19.4%で最も高く、続いて「10～14年」が18.3%、「5年未満」が16.5%の順であり、「15年未満」が54.3%と半数以上を占める。



3. 就労形態をお答えください。(SA)

就労形態は「開業医」が61.0%、「勤務医」が35.0%、「非常勤」が3.7%となっている。



※開業医内訳 (SA)

就労形態の6割強を占める開業医のうち、「開設者」は63.2%、「開設者以外(親族等が開設者)」は30.3%となっている。



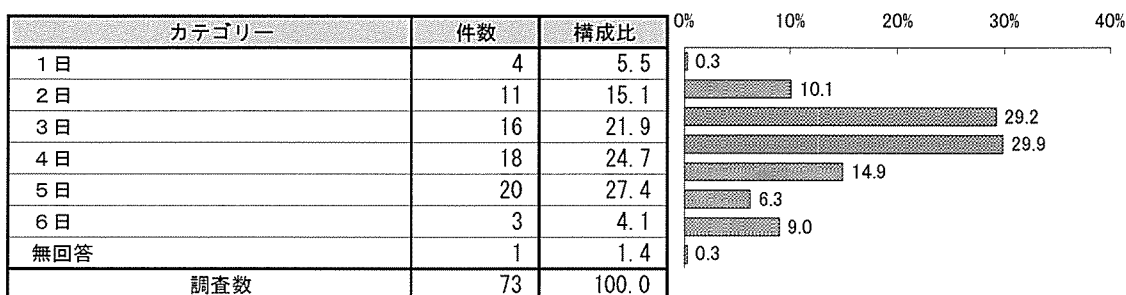
※勤務医内訳 (SA)

就労形態の1/3強を占める勤務医のうち、「常勤医師」は65.1%、「非常勤医師」は33.5%という内訳となっている。



※非常勤医師週間勤務日数 (SA)

非常勤医師の週間勤務日数は「5日」が27.4%、「4日」が24.7%、「3日」が21.9%、「2日」が21.9%などとなっており、「3～5日」で74.0%を占めている。



※非常勤医師週間勤務日数×年代別・就労形態別・実労働時間別

非常勤医師週間勤務日数を年代別にみると、30歳代は「2日」が41.2%と高く、「1～2日」で6割弱を占めるが、40歳代は「3日」「4日」「5日」が各3割前後であり、「3～5日」で約9割を占める。また、50歳代は「5日」が57.1%と6割弱を占めている。

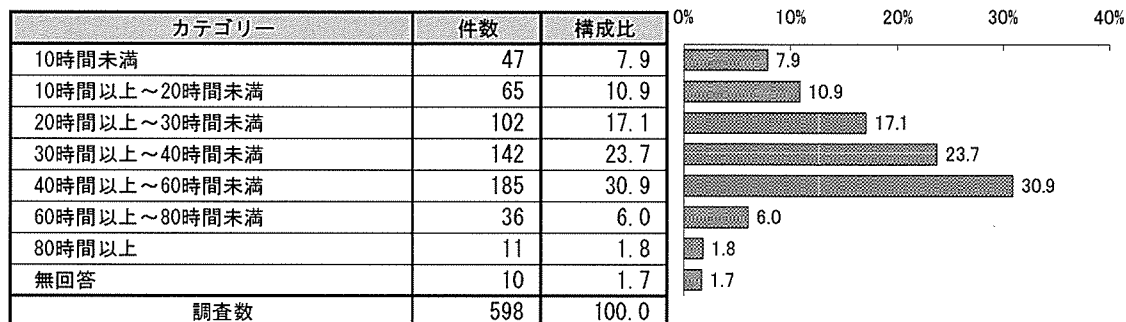
実労働時間別では、10時間未満は「1～2日」で83.3%、10時間以上～20時間未満は「2～4日」で92.0%、20時間以上～30時間未満は「3～5日」で95.0%を占めている。そして、30時間以上～40時間未満は「5日」が66.7%と高く、この実労働時間の全ての人は「4～6日」のいずれかに含まれる。

		調査数	1日／週	2日／週	3日／週	4日／週	5日／週	6日／週	無回答
上段：実数 下段：横%									
全体		73 100.0	4 5.5	11 15.1	16 21.9	18 24.7	20 27.4	3 4.1	1 1.4
年代	20歳代	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30歳代	17 100.0	3 17.6	7 41.2	2 11.8	3 17.6	2 11.8	0 0.0	0 0.0
	40歳代	31 100.0	0 0.0	2 6.5	9 29.0	10 32.3	9 29.0	1 3.2	0 0.0
	50歳代	14 100.0	0 0.0	0 0.0	2 14.3	2 14.3	8 57.1	2 14.3	0 0.0
	60歳代	5 100.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	70歳代	4 100.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0
	80歳以上	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
	無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
就労形態	開業医	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	勤務医	73 100.0	4 5.5	11 15.1	16 21.9	18 24.7	20 27.4	3 4.1	1 1.4
	非就業	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
実労働時間	10時間未満	12 100.0	4 33.3	6 50.0	0 0.0	0 0.0	2 16.7	0 0.0	0 0.0
	10時間以上～20時間未満	25 100.0	0 0.0	5 20.0	10 40.0	8 32.0	2 8.0	0 0.0	0 0.0
	20時間以上～30時間未満	20 100.0	0 0.0	0 0.0	5 25.0	8 40.0	6 30.0	1 5.0	0 0.0
	30時間以上～40時間未満	12 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 16.7	8 66.7	2 16.7	0 0.0
	40時間以上～60時間未満	3 100.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0
	60時間以上～80時間未満	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	80時間以上	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

すべての会員に対するアンケート

4.（「開業医」「勤務医」の方）実労働時間（週平均）をお答えください。（SA）

開業医・勤務医の週平均実労働時間は「40時間以上～60時間未満」が30.9%で最も高く、続いて「30時間以上～40時間未満」の23.7%であり、「30時間以上～60時間未満」で54.7%を占める。そして、「30時間未満」が35.8%であり、「60時間以上」という人は7.9%と1割を下回っている。



※実労働時間×年代別・就労形態別

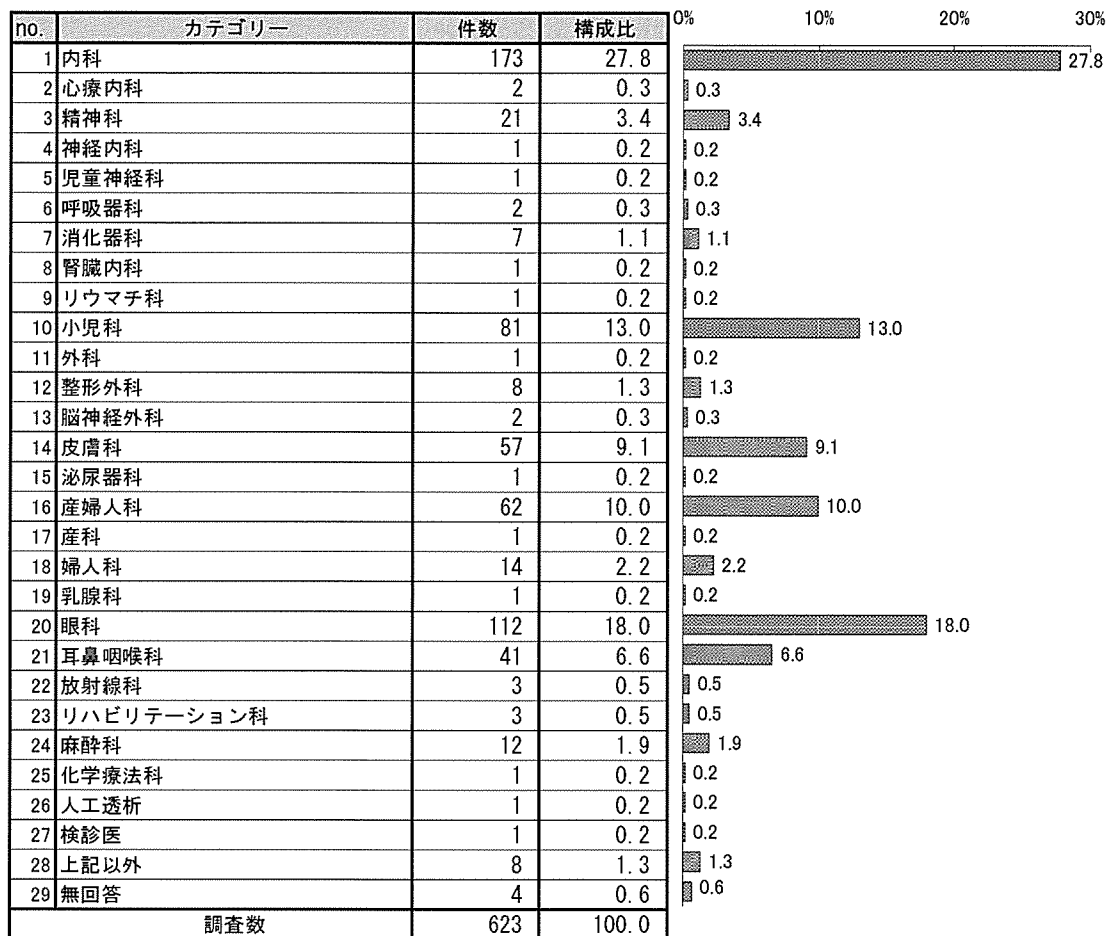
週平均実労働時間を年代別にみると、40～60歳代は「40時間以上～60時間未満」が3割台、「30時間以上～40時間未満」が2割台であり、「30時間以上～60時間未満」でみると50歳代が66.1%と非常に高い。その他の年代では、70歳以上は「20時間以上～30時間未満」が3割前後と高く、「10時間以上～30時間未満」でみると、5割強を占めている。

就労形態別にみると、開業医・勤務医ともに「30時間以上～60時間未満」は約55%とほぼ同スコアとなっているが、「40時間以上～60時間未満」に関しては勤務医が35.8%で、開業医の28.2%より8ポイントほど高い。

		調査数	10時間未満	10時間以上～20時間未満	20時間以上～30時間未満	30時間以上～40時間未満	40時間以上～60時間未満	60時間以上～80時間未満	80時間以上	無回答
上段：実数 下段：横%										
全体		598 100.0	47 7.9	65 10.9	102 17.1	142 23.7	185 30.9	36 6.0	11 1.8	10 1.7
年代	20歳代	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30歳代	61 100.0	8 13.1	12 19.7	9 14.8	11 18.0	14 23.0	4 6.6	2 3.3	1 1.6
	40歳代	182 100.0	12 6.6	18 9.9	27 14.8	47 25.8	60 33.0	15 8.2	1 0.5	2 1.1
	50歳代	186 100.0	7 3.8	9 4.8	31 16.7	54 29.0	69 37.1	9 4.8	6 3.2	1 0.5
	60歳代	90 100.0	5 5.6	9 10.0	12 13.3	22 24.4	33 36.7	6 6.7	2 2.2	1 1.1
	70歳代	37 100.0	6 16.2	9 24.3	11 29.7	4 10.8	5 13.5	1 2.7	0 0.0	1 2.7
	80歳以上	38 100.0	8 21.1	7 18.4	12 31.6	4 10.5	2 5.3	1 2.6	0 0.0	4 10.5
	無回答	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
就労形態	開業医	380 100.0	29 7.6	33 8.7	71 18.7	102 26.8	107 28.2	23 6.1	7 1.8	8 2.1
	勤務医	218 100.0	18 8.3	32 14.7	31 14.2	40 18.3	78 35.8	13 6.0	4 1.8	2 0.9
	非就業	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

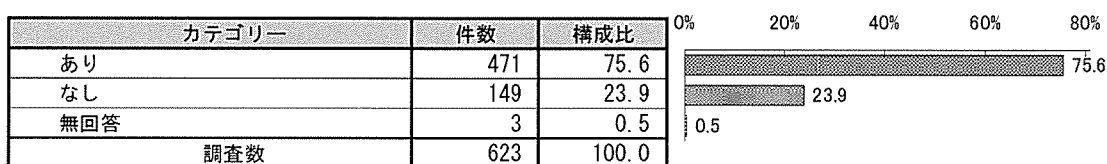
5. 主たる診療科をお答えください。(SA)

主たる診療科は「内科」が27.8%、「眼科」が18.0%、「小児科」が13.0%、「産婦人科」が10.0%などとなっており、「内科・眼科・小児科・産婦人科」の4科目で68.8%を占めている。尚、その他の診療科目は1割を下回っており、「皮膚科」が9.1%、「耳鼻咽喉科」が6.6%などとなっている。



6. 配偶者等パートナーの有無をお答えください。(SA)

配偶者等パートナーの有無に関して、「あり」が75.6%、「なし」が23.9%となっている。



すべての会員に対するアンケート

※配偶者等パートナー職種 (SA)

「あり」という人の配偶者等パートナーの職種は「医師」が74.5%、「他職種」が24.0%となっており、同じ職種の人が3/4を占めている。



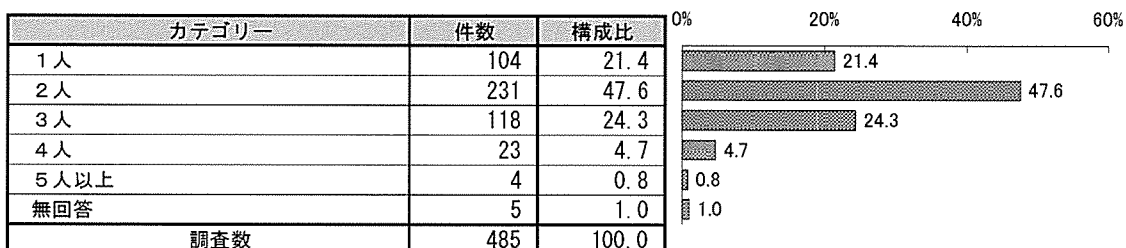
7. 子供の有無をお答えください。(SA)

子供の有無に関しては、「あり」が77.8%、「なし」が21.3%となっている。



※子供人数 (SA)

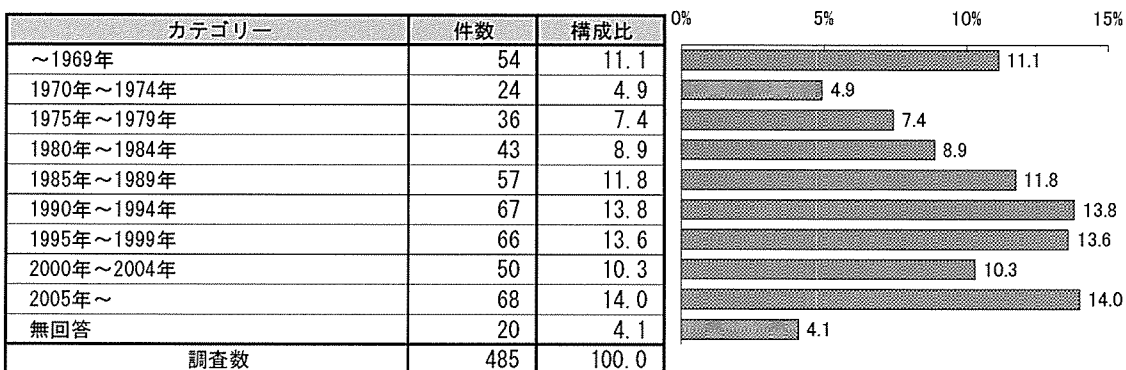
「あり」という人の子供の人数は「2人」が47.6%と高く、続いて「3人」が24.3%、「1人」が21.4%であり、「2～3人」で72.0%を占めている。尚、「4人以上」は5.6%であった。



8. (質問7で「あり」と答えた方) 何人かの場合は一番下のお子様の出産時についてお答えください。

(1) いつ出産されましたか? (SA)

子供が「あり」という人の末子のお産は「2005年～」が14.0%、「2000年～2004年」が10.3%、「2000年～」が24.3%を占めている。そして「1990年～1994年」が13.8%、「1995年～1999年」が13.6%、「1990年台」は27.4%を占める。尚、「1980年台」は20.6%、「1970年台」は12.4%となっている。



※出産時期×就労形態別・産前産休期間別・産後産休期間別

末子の出産時期を年代別にみると、開業医は「～1969年」が33.3%と高く、「2005年～」が18.4%、「1995年～1999年」が16.1%などとなっている。勤務医は「1980年～1984年」以降は10%台で分散しており、非就業は「1985年～1989年」が23.7%と高く、「1990年～1994年」以降は勤務医同様に10%台で分散傾向にある。

産前産休期間別では、2週間以内と4週間は「1990年～1994年」以降で5割以上を占めるが、3週間は各時期で分散しており、6週間は「1975年～1979年」以降は10～15%前後で分散している。但し、8週間に関しては「1990年～1994年」と「2005年～」がそれぞれ24.4%と高くなっている。

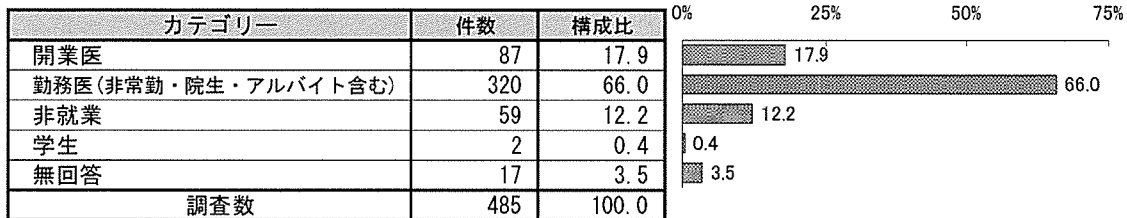
産後産休期間別では、3週間以内と5週間は「～1969年」が25%以上と高く、4週間は各時期で分散している中で「1990～1994年」が19.2%で最も高い。また、6週間は「1975年～1994年」で約6割、8週間以上の長期間は「1985年～1989年」以降で8割以上を占めている。

		調査数	5 1 9 6 9 年	1 1 9 7 0 4 年	1 1 9 7 5 年	1 1 9 8 0 4 年	1 1 9 8 5 年	1 1 9 9 0 4 年	1 1 9 9 5 年	2 2 0 0 4 年	2 0 5 年	無 回 答
上段：実数 下段：横%												
全体		485 100.0	54 11.1	24 4.9	36 7.4	43 8.9	57 11.8	67 13.8	66 13.6	50 10.3	68 14.0	20 4.1
就 労 形 態	開業医	87 100.0	29 33.3	5 5.7	6 6.9	4 4.6	0 0.0	5 5.7	14 16.1	7 8.0	16 18.4	1 1.1
	勤務医	320 100.0	14 4.4	13 4.1	25 7.8	33 10.3	42 13.1	55 17.2	46 14.4	42 13.1	44 13.8	6 1.9
	非就業	59 100.0	9 15.3	5 8.5	4 6.8	5 8.5	14 23.7	7 11.9	6 10.2	1 1.7	7 11.9	1 1.7
	学生	2 100.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0
	無回答	17 100.0	2 11.8	0 0.0	1 5.9	1 5.9	1 5.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	12 70.6
産 前 産 休 期 間	1週間以内	75 100.0	16 21.3	4 5.3	4 5.3	4 5.3	2 2.7	10 13.3	15 20.0	6 8.0	13 17.3	1 1.3
	2週間	28 100.0	4 14.3	2 7.1	3 10.7	2 7.1	2 7.1	5 17.9	3 10.7	4 14.3	3 10.7	0 0.0
	3週間	17 100.0	3 17.6	2 11.8	1 5.9	2 11.8	2 11.8	1 5.9	2 11.8	1 5.9	3 17.6	0 0.0
	4週間	87 100.0	6 6.9	4 4.6	8 9.2	9 10.3	11 12.6	11 12.6	12 13.8	14 16.1	12 13.8	0 0.0
	5週間	2 100.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
	6週間	112 100.0	3 2.7	4 3.6	11 9.8	13 11.6	17 15.2	18 16.1	18 16.1	11 9.8	16 14.3	1 0.9
	7週間	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	8週間	41 100.0	1 2.4	0 0.0	2 4.9	5 12.2	6 14.6	10 24.4	4 9.8	3 7.3	10 24.4	0 0.0
	9週間	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	10週間以上	13 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 7.7	4 30.8	3 23.1	3 23.1	2 15.4	0 0.0
	無回答	110 100.0	21 19.1	7 6.4	7 6.4	8 7.3	16 14.5	8 7.3	9 8.2	7 6.4	9 8.2	18 16.4
産 後 産 休 期 間	1週間以内	27 100.0	10 37.0	2 7.4	1 3.7	2 7.4	0 0.0	0 0.0	3 11.1	4 14.8	4 14.8	1 3.7
	2週間	20 100.0	6 30.0	2 10.0	2 10.0	1 5.0	1 5.0	0 0.0	4 20.0	1 5.0	3 15.0	0 0.0
	3週間	12 100.0	3 25.0	2 16.7	1 8.3	2 16.7	0 0.0	2 16.7	1 8.3	1 8.3	0 0.0	0 0.0
	4週間	52 100.0	9 17.3	3 5.8	6 11.5	7 13.5	3 5.8	10 19.2	5 9.6	4 7.7	5 9.6	0 0.0
	5週間	3 100.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	6週間	54 100.0	7 13.0	3 5.6	8 14.8	10 18.5	8 14.8	6 11.1	5 9.3	3 5.6	3 5.6	1 1.9
	7週間	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	8週間	142 100.0	1 0.7	1 0.7	8 5.6	9 6.3	21 14.8	29 20.4	25 17.6	20 14.1	28 19.7	0 0.0
	9週間	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
	10週間以上	50 100.0	0 0.0	2 4.0	2 4.0	3 6.0	7 14.0	9 18.0	7 14.0	7 14.0	13 26.0	0 0.0
	無回答	118 100.0	17 14.4	9 7.6	8 6.8	9 7.6	15 12.7	10 8.5	11 9.3	9 7.6	12 10.2	18 15.3

すべての会員に対するアンケート

(2) 就労形態は？ (SA)

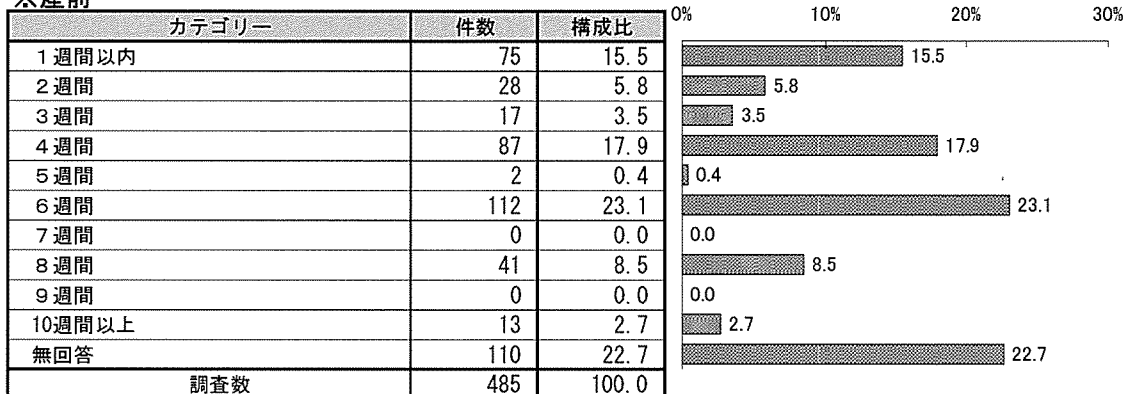
末子出産時の就労形態は「勤務医」が66.0%と高く、「開業医」が17.9%、「非就業」が12.2%、「学生」が0.4%となっている。



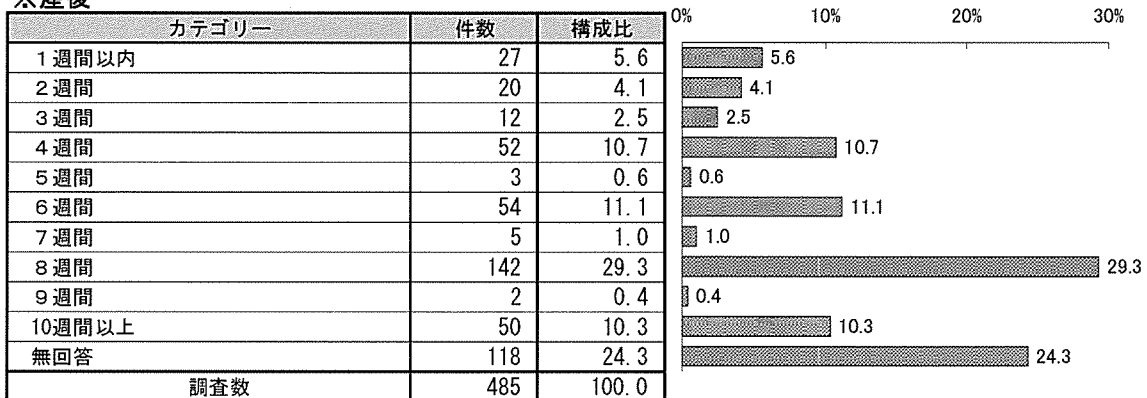
(3) 産休期間は？ (SA)

末子出産時の産前の産休期間は「無回答」が22.7%と高いが、回答の中では「6週間」が23.1%で最も高く、「4週間」が17.9%、「1週間以内」が15.5%などとなっている。
産後の産休期間も「無回答」が24.3%と高いが、回答の中では「8週間」が29.3%で最も高く、「6週間」が11.1%、「4週間」が10.7%、「10週間以上」が10.3%という結果であった。

※産前



※産後



※開業医と勤務医の産休期間の比較（非就業と学生、無回答を除いてます）

末子出産時の産前の産休期間は、開業医の「1週間以内」が42.5%と高く、勤務医の11.6%との比較では、30.9%の開きがある。

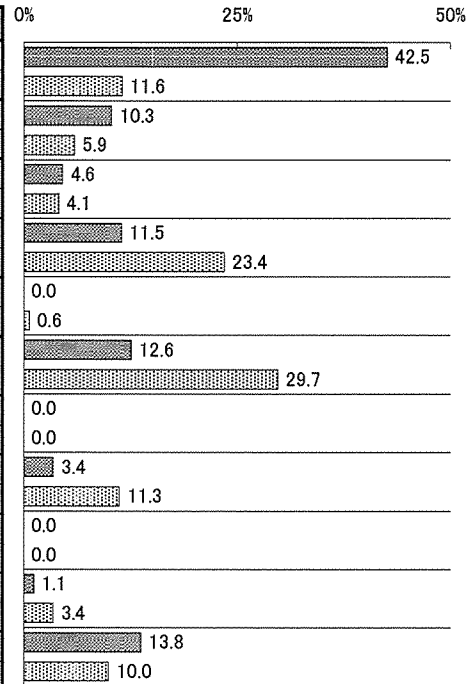
また、勤務医は「6週間」が29.7%と高く、次いで「4週間」が23.4%となっている。

産後の産休期間では、勤務医の「8週間」が40.9%と高く、開業医の10.3%と比べると、30.6%の開きがある。

また、開業医で「1週間以内」と「2週間」合計が33.8%に対し、勤務医は、4.7%になっている。

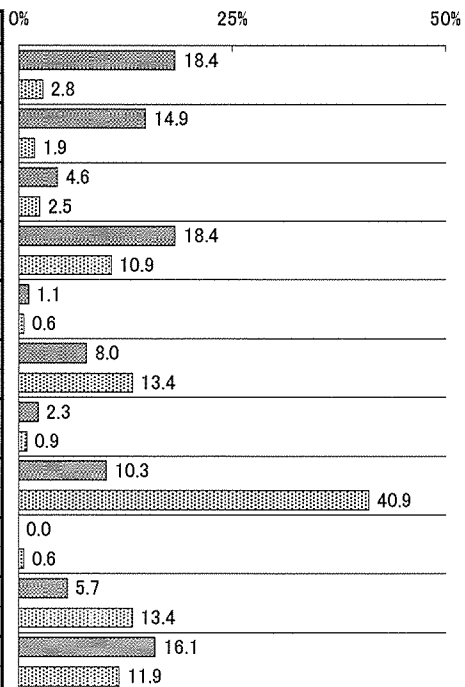
※産前（開業医と勤務医との比較）

カテゴリ	件数	構成比
1週間以内 開業医	37	42.5
勤務医	37	11.6
2週間 開業医	9	10.3
勤務医	19	5.9
3週間 開業医	4	4.6
勤務医	13	4.1
4週間 開業医	10	11.5
勤務医	75	23.4
5週間 開業医	0	0.0
勤務医	2	0.6
6週間 開業医	11	12.6
勤務医	95	29.7
7週間 開業医	0	0.0
勤務医	0	0.0
8週間 開業医	3	3.4
勤務医	36	11.3
9週間 開業医	0	0.0
勤務医	0	0.0
10週間以上 開業医	1	1.1
勤務医	11	3.4
無回答 開業医	12	13.8
勤務医	32	10.0
調査数 開業医計	87	100.0
調査数 勤務医計	320	100.0



※産後（開業医と勤務医との比較）

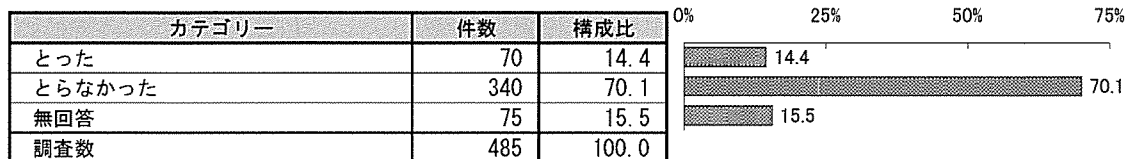
カテゴリ	件数	構成比
1週間以内 開業医	16	18.4
勤務医	9	2.8
2週間 開業医	13	14.9
勤務医	6	1.9
3週間 開業医	4	4.6
勤務医	8	2.5
4週間 開業医	16	18.4
勤務医	35	10.9
5週間 開業医	1	1.1
勤務医	2	0.6
6週間 開業医	7	8.0
勤務医	43	13.4
7週間 開業医	2	2.3
勤務医	3	0.9
8週間 開業医	9	10.3
勤務医	131	40.9
9週間 開業医	0	0.0
勤務医	2	0.6
10週間以上 開業医	5	5.7
勤務医	43	13.4
無回答 開業医	14	16.1
勤務医	38	11.9
調査数 開業医計	87	100.0
調査数 勤務医計	320	100.0



すべての会員に対するアンケート

(4) 育児休業は？ (SA)

末子出産時に育児休業を「とった」人は14.4%、「とらなかった」人は70.1%であった。



※育児休業期間 (SA)

末子出産時に育児休業をとった人の期間は、「1年」が20.0%と最も高く、続いて「1年超」が15.7%であり、「1年以上」という人が35.7%を占めた。そして、「2～3ヶ月」が12.9%、「6～7ヶ月」が11.4%、「4～5ヶ月」が10.0%などとなっている。



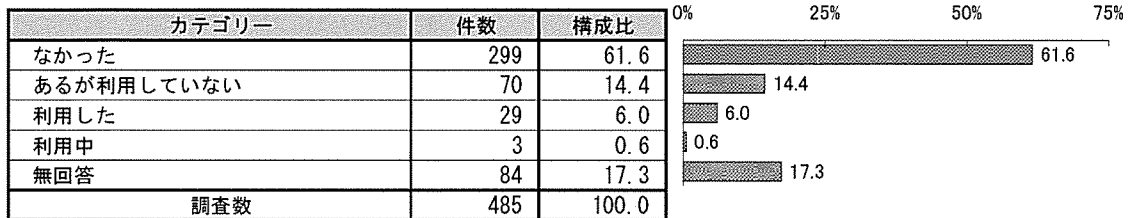
※育児休業取得×年代別・就労形態別

育児休業取得を年代別にみると、「とった」という人は若い世代ほど高く、サンプル数の少ない20歳代を除けば、30歳代が36.6%、40歳代が22.6%、50歳代が10.1%であり、80歳以上は皆無となっている。また、育児休業取得を就労形態別にみると、開業医が10.1%と低いのに対し、勤務医は24.2%であり、勤務医が14ポイントほど高い。

		調査数	とった	とらなかった	無回答
上段：実数 下段：横%					
全体		485	70	340	75
		100.0	14.4	70.1	15.5
年代	20歳代	1	0	1	0
		100.0	0.0	100.0	0.0
	30歳代	41	15	20	6
		100.0	36.6	48.8	14.6
	40歳代	137	31	90	16
		100.0	22.6	65.7	11.7
	50歳代	148	15	111	22
		100.0	10.1	75.0	14.9
	60歳代	82	6	63	13
		100.0	7.3	76.8	15.9
就労形態	70歳代	32	3	20	9
		100.0	9.4	62.5	28.1
	80歳以上	44	0	35	9
		100.0	0.0	79.5	20.5
	無回答	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0
	開業医	306	31	222	53
		100.0	10.1	72.5	17.3
就労形態	勤務医	161	39	105	17
		100.0	24.2	65.2	10.6
	非就業	17	0	12	5
		100.0	0.0	70.6	29.4
就労形態	無回答	1	0	1	0
		100.0	0.0	100.0	0.0

(5) 勤務先に育児休業制度は？(SA)

末子出産時の勤務先育児休業制度有無では、「なかった」が61.6%と非常に高く、「あるが利用していない」が14.4%、「利用した」が6.0%、「利用中」が0.6%となっている。



※育児休業制度×年代別

勤務先育児休業制度有無を年代別にみると、「なかった」は年代が高くなるほど高く、50歳以上は6～7割台となっているが、40歳代は56.9%、そして30歳代は34.1%と非常に低い。尚、利用者は30歳代が「利用した」と「利用中」を併せると26.8%と高い。

		調査数	なかった	あるが利用していない	利用した	利用中	無回答
上段：実数 下段：横%							
全体		485 100.0	299 61.6	70 14.4	29 6.0	3 0.6	84 17.3
年代	20歳代	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30歳代	41 100.0	14 34.1	10 24.4	9 22.0	2 4.9	6 14.6
	40歳代	137 100.0	78 56.9	30 21.9	13 9.5	1 0.7	15 10.9
	50歳代	148 100.0	100 67.6	18 12.2	5 3.4	0 0.0	25 16.9
	60歳代	82 100.0	60 73.2	9 11.0	0 0.0	0 0.0	13 15.9
	70歳代	32 100.0	20 62.5	1 3.1	1 3.1	0 0.0	10 31.3
	80歳以上	44 100.0	27 61.4	1 2.3	1 2.3	0 0.0	15 34.1
	無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

※
育児休業制度の有無について調査対象者の回答を基に集計しているため、医療機関での実際の制度の有無と、数字が異なる可能性があります。

(6) 夫以外に常時育児を手助けしてもらう人はいますか(いましたか)？(SA)

末子出産時に夫以外の常時育児手助けが「いる(いた)」という人は70.1%、「いない(いなかった)」という人は26.8%であった。



すべての会員に対するアンケート

※常時育児手助け有無×年代別

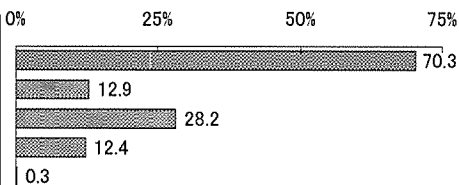
夫以外の常時育児手助け有無を年代別にみると、サンプル数の少ない20歳代を除けば年代による開きはなく、「いる(いた)」は最も高い70歳以上が75.0%であるのに対し、最も低い60歳代でも68.3%であり、7ポイント弱の差である。

		調査数	いる(いた)	いない(なかった)	無回答
上段：実数 下段：横%					
全体		485 100.0	340 70.1	130 26.8	15 3.1
年代	20歳代	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	30歳代	41 100.0	29 70.7	12 29.3	0 0.0
	40歳代	137 100.0	95 69.3	37 27.0	5 3.6
	50歳代	148 100.0	103 69.6	43 29.1	2 1.4
	60歳代	82 100.0	56 68.3	23 28.0	3 3.7
	70歳代	32 100.0	24 75.0	4 12.5	4 12.5
	80歳以上	44 100.0	33 75.0	10 22.7	1 2.3
	無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

※いる(いた)の内訳(MA)

夫以外の常時育児手助けが「いる(いた)」という人の内訳としては、「自分または夫の親」が70.3%と非常に高く、それ以外では「ベビーシッター等」が28.2%、「自分または夫の親以外の家族」が12.9%などとなっている。

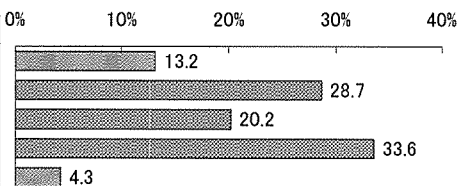
カテゴリー	件数	構成比
自分または夫の親	239	70.3
自分または夫の親以外の家族	44	12.9
ベビーシッター等	96	28.2
その他	42	12.4
無回答	1	0.3
調査数	340	100.0



(7) 夫は育児に協力的ですか(でしたか)? (SA)

末子出産時の夫の育児協力度は「たいへん協力的」が13.2%、「協力的」が28.7%で、併せると41.8%が協力的であったが、「あまり協力しない」(20.2%)と「多忙なため協力不可」(33.6%)を合わせた非協力的は53.8%であり、非協力的が12.0ポイント上回る。

カテゴリー	件数	構成比
たいへん協力的	64	13.2
協力的	139	28.7
あまり協力しない	98	20.2
多忙なため協力不可	163	33.6
無回答	21	4.3
調査数	485	100.0



※夫育児協力度×年代別・配偶者職種別

夫の育児協力度を年代別にみると、「たいへん協力的＋協力的」は若い年代ほど高く、30歳代が65.9%、40歳代が50.4%と5割を超えるが、50歳代は41.2%、60歳代は32.9%、70歳代は18.8%、80歳以上は27.3%と低くなり、60歳以上は4割を下回っている。

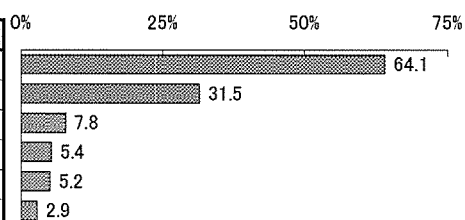
また、配偶者等の職種別にみると、同職種の医師の場合は「たいへん協力的＋協力的」が41.5%であるのに対して、他業種の場合は65.1%と非常に高い。

上段：実数 下段：横%		調査数	たいへん協力的	協力的	あまり協力的でない	多忙なため協力不可	無回答
全体		485 100.0	64 13.2	139 28.7	98 20.2	163 33.6	21 4.3
年代	20歳代	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30歳代	41 100.0	10 24.4	17 41.5	5 12.2	9 22.0	0 0.0
	40歳代	137 100.0	23 16.8	46 33.6	23 16.8	37 27.0	8 5.8
	50歳代	148 100.0	21 14.2	40 27.0	32 21.6	54 36.5	1 0.7
	60歳代	82 100.0	7 8.5	20 24.4	22 26.8	28 34.1	5 6.1
	70歳代	32 100.0	2 6.3	4 12.5	6 18.8	15 46.9	5 15.6
	80歳以上	44 100.0	1 2.3	11 25.0	10 22.7	20 45.5	2 4.5
	無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
配偶者職種	医師	323 100.0	39 12.1	95 29.4	64 19.8	118 36.5	7 2.2
	他業種	83 100.0	22 26.5	32 38.6	11 13.3	14 16.9	4 4.8
	無回答	6 100.0	1 16.7	0 0.0	2 33.3	2 33.3	1 16.7

(8) 就学前の保育は？(MA)

末子の就学前の保育は「保育園」が64.1%、「幼稚園」が31.5%と高く、「家族」(7.8%)と「自分」(5.4%)は1割未満と低い。

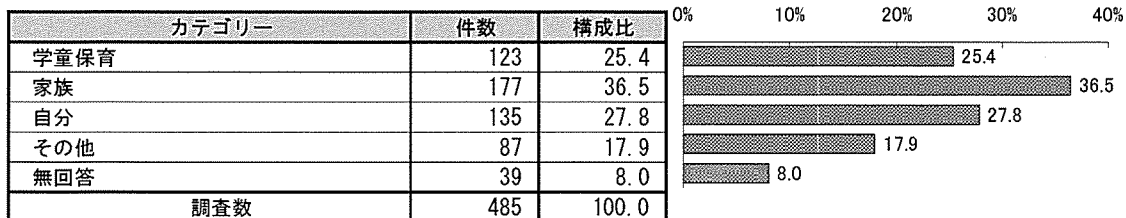
カテゴリー	件数	構成比
保育園	311	64.1
幼稚園	153	31.5
家族	38	7.8
自分	26	5.4
その他	25	5.2
無回答	14	2.9
調査数	485	100.0



すべての会員に対するアンケート

(9) 小学校入学後は？ (MA)

末子の小学校入学後の保育は「家族」が36.5%、「自分」が27.8%、「学童保育」が25.4%であり、就学前は保育園が64.1%と高いのに対し、「家族もしくは自分」で保育している割合が高い。



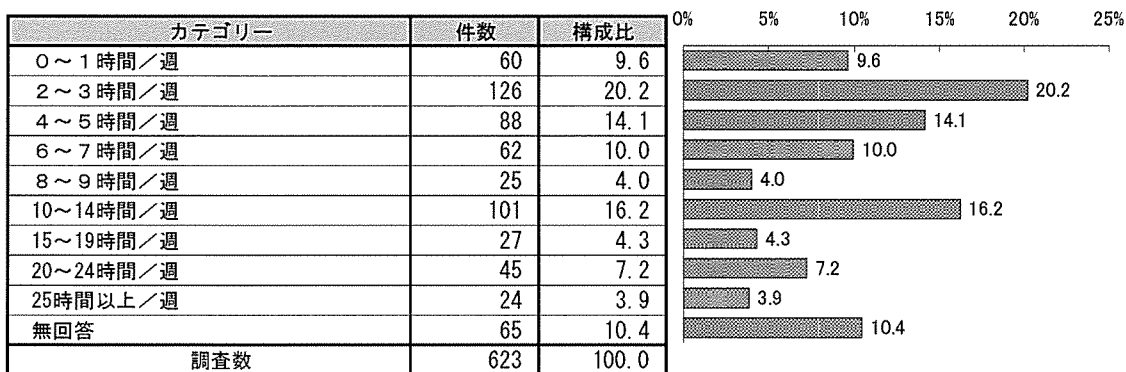
※小学校入学後保育×就労形態

小学校入学後の保育を就労形態別にみると、開業医は「家族」が36.5%、「自分」が31.7%と高いのに対し、勤務医は「学童保育」が40.4%と高く、「自分」は17.4%と低い。

		調査数	学童保育	家族	自分	その他	無回答
上段：実数 下段：横%							
全体		485 100.0	123 25.4	177 36.5	135 27.8	87 17.9	39 8.0
就労形態	開業医	306 100.0	57 18.6	115 37.6	97 31.7	63 20.6	20 6.5
	勤務医	161 100.0	65 40.4	53 32.9	28 17.4	22 13.7	18 11.2
	非就業	17 100.0	1 5.9	8 47.1	10 58.8	2 11.8	1 5.9
	無回答	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

9. 現在、仕事・家事・育児以外の勉強や趣味に費やす時間は？ (SA)

勉強や趣味に費やす平均時間としては「2～3時間／週」が20.2%で最も高く、続いて「10～14時間／週」が16.2%、「4～5時間／週」が14.1%、「6～7時間／週」が10.0%と続く。尚、「20時間以上／週」は11.0%であり、1日3時間以上費やせる人は1割強と少ない。



※小学校入学後保育×就労形態

小学校入学後の保育を就労形態別にみると、開業医は「家族」が36.5%、「自分」が31.7%と高いのに対し、勤務医は「学童保育」が40.4%と高く、「自分」は17.4%と低い。

上段：実数 下段：横%		調査数	学童保育	家族	自分	その他	無回答
全体		485 100.0	123 25.4	177 36.5	135 27.8	87 17.9	39 8.0
就労形態	開業医	306 100.0	57 18.6	115 37.6	97 31.7	63 20.6	20 6.5
	勤務医	161 100.0	65 40.4	53 32.9	28 17.4	22 13.7	18 11.2
	非就業	17 100.0	1 5.9	8 47.1	10 58.8	2 11.8	1 5.9
	無回答	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

※勉強・趣味時間×年代別・就労形態別・子供有無別

勉強や趣味に費やす平均時間を年代別にみると、30歳代は「3時間以内／週」が50.8%と高く、40歳代は「2～5時間以内／週」が41.8%、50～60歳代は「2～7時間以内／週」が43～45%前後となっているが、70歳以上は「20～24時間／週」が1割台と高いものの、バラツキが見られる。

就労形態別の平均時間では、開業医・勤務ともに「7時間以内／週」が5割台となっているが、「10時間以上／週」では開業医が28.2%であるのに対し、勤務医は37.6%で10ポイントほど高い。

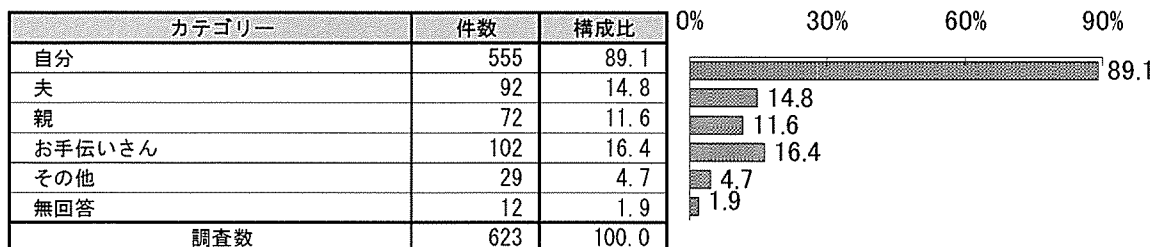
子供有無別の平均時間では、「7時間以内／週」は子供がいる人が56.9%であるのに対し、子供がいない人は44.4%、そして「10時間以上／週」では子供がいる人が27.8%であるのに対し、子供がいない人は45.9%であり、18ポイントも高い。

上段：実数 下段：横%		調査数	0 ～ 1 時間 ／ 週	2 ～ 3 時間 ／ 週	4 ～ 5 時間 ／ 週	6 ～ 7 時間 ／ 週	8 ～ 9 時間 ／ 週	10 ～ 14 時間 ／ 週	15 ～ 19 時間 ／ 週	20 ～ 24 時間 ／ 週	25 時間 以上 ／ 週	無 回 答
全体		623 100.0	60 9.6	126 20.2	88 14.1	62 10.0	25 4.0	101 16.2	27 4.3	45 7.2	24 3.9	65 10.4
年代	20歳代	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30歳代	63 100.0	15 23.8	17 27.0	6 9.5	4 6.3	0 0.0	7 11.1	4 6.3	6 9.5	3 4.8	1 1.6
	40歳代	182 100.0	21 11.5	47 25.8	29 15.9	15 8.2	11 6.0	27 14.8	3 1.6	9 4.9	6 3.3	14 7.7
	50歳代	186 100.0	16 8.6	30 16.1	25 13.4	25 13.4	7 3.8	34 18.3	12 6.5	15 8.1	5 2.7	17 9.1
	60歳代	93 100.0	6 6.5	14 15.1	19 20.4	9 9.7	3 3.2	23 24.7	4 4.3	2 2.2	4 4.3	9 9.7
	70歳代	39 100.0	1 2.6	6 15.4	1 2.6	4 10.3	4 10.3	3 7.7	1 2.6	6 15.4	3 7.7	10 25.6
	80歳以上	56 100.0	0 0.0	11 19.6	8 14.3	5 8.9	0 0.0	7 12.5	3 5.4	7 12.5	2 3.6	13 23.2
	無回答	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0
	無回答	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
就労形態	開業医	380 100.0	40 10.5	72 18.9	54 14.2	45 11.8	18 4.7	55 14.5	15 3.9	24 6.3	13 3.4	44 11.6
	勤務医	218 100.0	19 8.7	51 23.4	30 13.8	14 6.4	7 3.2	43 19.7	12 5.5	16 7.3	11 5.0	15 6.9
	非就業	23 100.0	1 4.3	3 13.0	2 8.7	3 13.0	0 0.0	3 13.0	0 0.0	5 21.7	0 0.0	6 26.1
	無回答	2 100.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
子供有無	あり	485 100.0	56 11.5	102 21.0	69 14.2	49 10.1	19 3.9	74 15.3	17 3.5	30 6.2	14 2.9	55 11.3
	なし	133 100.0	4 3.0	24 18.0	19 14.3	12 9.0	6 4.5	27 20.3	10 7.5	14 10.5	10 7.5	7 5.3
	無回答	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	3 60.0

すべての会員に対するアンケート

10. 家事は主に誰が行ないますか？(MA)

家事を主に行なう人は「自分」が89.1%と高く、本人以外では「お手伝いさん」が16.4%、「夫」が14.8%、「親」が11.6%などとなっている。



※主な家事担当者×就労形態別・配偶者職種別

主な家事担当者を就労形態別にみると、「自分」という人は開業医が86.3%、勤務医が93.6%であり、勤務医が7ポイントほど高い。また、「夫」や「親」についても勤務医が開業医より5ポイント前後高いが、「お手伝いさん」に関しては、開業医が22.6%で勤務医の4.6%より18ポイントも高くなっている。配偶者等の職種別では、「自分」という人は医師が91.7%、他業種が90.3%とほぼ同スコアであるが、「夫」に関しては医師が14.8%、他業種が35.4%であり、20ポイント以上の開きがある。

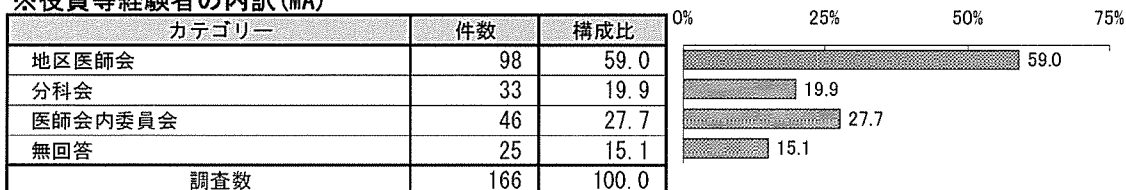
		調査数	自分	夫	親	お手伝いさん	その他	無回答
上段：実数 下段：横%								
全体		623	555	92	71	102	29	12
		100.0	89.1	14.8	11.4	16.4	4.7	1.9
就労形態	開業医	380	328	49	36	86	18	8
		100.0	86.3	12.9	9.5	22.6	4.7	2.1
	勤務医	218	204	38	33	10	7	4
		100.0	93.6	17.4	15.1	4.6	3.2	1.8
非就業		23	21	4	2	6	4	0
		100.0	91.3	17.4	8.7	26.1	17.4	0.0
無回答		2	2	1	0	0	0	0
		100.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
配偶者職種	医師	351	322	52	31	62	11	5
		100.0	91.7	14.8	8.8	17.7	3.1	1.4
	他業種	113	102	40	12	13	4	2
		100.0	90.3	35.4	10.6	11.5	3.5	1.8
無回答		7	6	0	2	3	0	0
		100.0	85.7	0.0	28.6	42.9	0.0	0.0

11. 医師会の役員等の経験(過去・現時を含め)はありますか？(SA)

医師会の役員等の経験に関しては「ある」が26.8%、「ない」が71.3%であった。尚、役員経験者の内訳としては、「地区医師会」が59.0%で最も高く、そして「医師会内委員会」が27.7%、「分科会」が19.9%となっている。



※役員等経験者の内訳(MA)



※役員等経験有無×年代別・就労形態別

医師会役員等の経験を年代別にみると、「ある」という人は年代が高くなるほど高くなる傾向にあり、40歳代以下が2割を下回っているのに対し、50歳代が31.7%、60歳代が45.2%、70歳代が46.2%、80歳以上が35.7%と3割を上回っている。

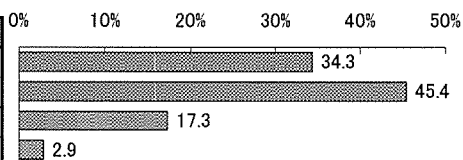
就労形態別でみると、「ある」という人は開業医が38.4%であるのに対し、勤務医は6.0%と非常に低い。

上段：実数 下段：横%		調査数	ある	ない	無回答
全体		623	166	444	13
		100.0	26.6	71.3	2.1
年代	20歳代	2	0	2	0
		100.0	0.0	100.0	0.0
	30歳代	63	1	62	0
		100.0	1.6	98.4	0.0
	40歳代	182	26	155	1
		100.0	14.3	85.2	0.5
	50歳代	186	59	122	5
		100.0	31.7	65.6	2.7
	60歳代	93	42	49	2
		100.0	45.2	52.7	2.2
就労形態	70歳代	39	18	19	2
		100.0	46.2	48.7	5.1
	80歳以上	56	20	33	3
		100.0	35.7	58.9	5.4
	無回答	2	0	2	0
		100.0	0.0	100.0	0.0
	開業医	380	146	226	8
		100.0	38.4	59.5	2.1
	勤務医	218	13	202	3
		100.0	6.0	92.7	1.4
就労形態	非就業	23	6	15	2
		100.0	26.1	65.2	8.7
	無回答	2	1	1	0
		100.0	50.0	50.0	0.0

12. 学会や講習会などの出席は可能ですか？(SA)

学会や講習会などへの出席が「十分出席できている」という人は34.3%、それに対して「不十分」が45.4%、「ほとんどできてない」が17.3%であり、「不十分+ほとんどできてない」が62.8%を占めている。

カテゴリー	件数	構成比
十分出席できている	214	34.3
不十分	283	45.4
ほとんどできてない	108	17.3
無回答	18	2.9
調査数	623	100.0



すべての会員に対するアンケート

※学会・講習会出席状況×年代別・就労形態別・子供有無別

学会や講習会などへの出席状況を年代別にみると、「十分出席できている」は50～70歳代が高く、中でも最も高い70歳代は59.0%と5割を超え、50歳代が41.4%、60歳代が44.1%となっている。

就労形態別でみると、「十分出席できている」は開業医が33.4%、勤務医が38.1%であり、勤務医が5ポイントほど高い。

子供有無別では、子供がいる人は「十分出席できている」が32.2%、そして「不十分+ほとんどできてない」が65.2%であるのに対し、子供がいない人は「十分出席できている」が42.1%、「不十分+ほとんどできてない」が54.9%となっている。

		調査数	十分出席できている	不十分	ほとんどできない	無回答
上段：実数 下段：横%						
全体		623 100.0	214 34.3	283 45.4	108 17.3	18 2.9
年代	20歳代	2 100.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0
	30歳代	63 100.0	12 19.0	30 47.6	21 33.3	0 0.0
	40歳代	182 100.0	44 24.2	93 51.1	44 24.2	1 0.5
	50歳代	186 100.0	77 41.4	89 47.8	16 8.6	4 2.2
	60歳代	93 100.0	41 44.1	41 44.1	9 9.7	2 2.2
	70歳代	39 100.0	23 59.0	9 23.1	2 5.1	5 12.8
	80歳以上	56 100.0	15 26.8	21 37.5	14 25.0	6 10.7
	無回答	2 100.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0
就労形態	開業医	380 100.0	127 33.4	183 48.2	60 15.8	10 2.6
	勤務医	218 100.0	83 38.1	92 42.2	40 18.3	3 1.4
	非就業	23 100.0	4 17.4	8 34.8	6 26.1	5 21.7
	無回答	2 100.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0
子供有無	あり	485 100.0	156 32.2	224 46.2	92 19.0	13 2.7
	なし	133 100.0	56 42.1	58 43.6	15 11.3	4 3.0
	無回答	5 100.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0

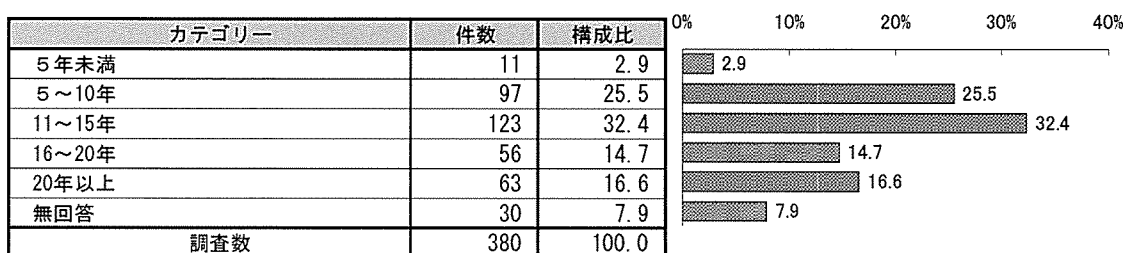
13. 開業医の形態についてお答えください。(SA)

開業の形態としては「病院」が2.9%、「有床診療所」が8.9%、「無床診療所」が83.9%となっており、「無床診療所」が8割強を占めている。



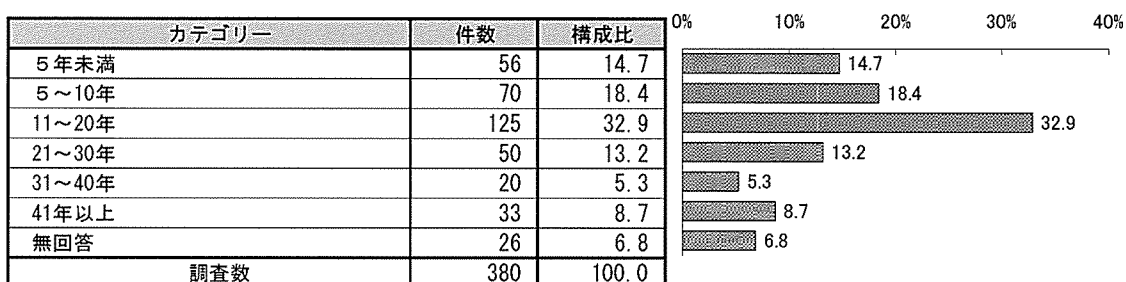
14. 卒後何年で開業しましたか？(SA)

卒後開業までの年数としては「11～15年」が32.4%で最も高く、続いて「5～10年」の25.5%、「5～15年」で57.9%を占めている。そして「16～20年」が14.7%、「20年以上」が16.6%であり、「5年未満」という人は2.9%と少数である。



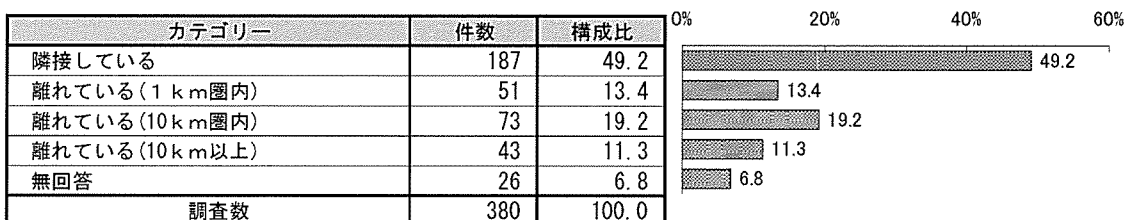
15. 開業して何年になりますか？(SA)

開業してからの年数は「11～20年」が32.9%で最も高く、「5～10年」が18.4%、「5年未満」が14.7%であり、「10年以内」(33.2%)と「11～20年」(32.9%)がほぼ同スコアである。そして、「21～30年」(13.2%)と「31年以上」(13.9%)もほぼ同スコアとなっている。



16. 自宅と開業地についてお答えください。(SA)

自宅と開業地の立地状況としては「隣接している」が49.2%とほぼ半数を占めており、離れているという人の距離としては、「1km圏内」が13.4%、「10km圏内」が19.2%、「10km以上」が11.3%となっている。



開業医の会員に対するアンケート

※自宅・開業地立地×年代別・開業理由別

自宅と開業地の立地状況を年代別にみると、「隣接している」は年代が高くなるほど高く、30歳代は27.8%、40歳代は33.7%、50歳代は48.8%、60歳代は58.8%、70歳代は66.7%、80歳以上は77.4%となっている。尚、離れているという人の距離として、30～50歳代は「10km圏内」が2割台となっている。

開業理由別でみると、「隣接している」は『家事育児と両立のため』という人と『高収入を得るため』という人がほぼ6割と高い。しかし、『病院勤務が過重労働のため』という人と『やりたい医療のため』という人は4割強と低く、離れている距離が「10km圏内」が3割弱を占めている。

		調査数 上段：実数 下段：横%	隣接している	離れて1km圏内	離れて10km圏内	離れて10km以上	無回答
全体		380 100.0	187 49.2	51 13.4	73 19.2	43 11.3	26 6.8
年代	20歳代	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
	30歳代	18 100.0	5 27.8	4 22.2	5 27.8	1 5.6	3 16.7
	40歳代	101 100.0	34 33.7	13 12.9	27 26.7	22 21.8	5 5.0
	50歳代	127 100.0	62 48.8	19 15.0	30 23.6	11 8.7	5 3.9
	60歳代	68 100.0	40 58.8	10 14.7	8 11.8	5 7.4	5 7.4
	70歳代	33 100.0	22 66.7	3 9.1	1 3.0	2 6.1	5 15.2
	80歳以上	31 100.0	24 77.4	2 6.5	2 6.5	1 3.2	2 6.5
	無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
開業理由	親族の医院の継承のため	121 100.0	68 56.2	17 14.0	14 11.6	18 14.9	4 3.3
	病院勤務が過重労働のため	66 100.0	27 40.9	5 7.6	18 27.3	15 22.7	1 1.5
	家事育児との両立のため	144 100.0	86 59.7	24 16.7	21 14.6	10 6.9	3 2.1
	高収入を得るため	12 100.0	7 58.3	1 8.3	2 16.7	1 8.3	1 8.3
	やりたい医療のため	104 100.0	44 42.3	17 16.3	31 29.8	9 8.7	3 2.9
	その他	46 100.0	16 34.8	6 13.0	16 34.8	7 15.2	1 2.2
	無回答	19 100.0	3 15.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	16 84.2

17. 開業の理由についてお答えください。(MA)

開業の理由としては「家事育児との両立のため」が37.9%で最も高く、続いて「親族の医院の継承のため」が31.8%、「やりたい医療のため」が27.4%などとなっているが、「高収入を得るため」は3.2%と低い。

カテゴリー	件数	構成比	
親族の医院の継承のため	121	31.8	31.8
病院勤務が過重労働のため	66	17.4	17.4
家事育児との両立のため	144	37.9	37.9
高収入を得るため	12	3.2	3.2
やりたい医療のため	104	27.4	27.4
その他	46	12.1	12.1
無回答	19	5.0	5.0
調査数	380	100.0	

※開業理由×卒後開業年数別

開業理由を卒後開業年数別にみると、5年未満は「親族の医院の継承のため」が72.7%で最も高く、5～10年未満と11～15年未満は「家事育児との両立のため」が5割弱と高い。そして、16～20年は「家事育児との両立のため」と「やりたい医療のため」が3割台、20年以上は「やりたい医療のため」が42.9%と高い。

		調査数	親族の医院の継承のため	病院勤務が過重労働のため	家事育児との両立のため	高収入を得るため	やりたい医療のため	その他	無回答
		上段：実数 下段：横%							
全体		380 100.0	121 31.8	66 17.4	144 37.9	12 3.2	104 27.4	46 12.1	19 5.0
卒後開業年数	5年未満	11 100.0	8 72.7	0 0.0	1 9.1	0 0.0	1 9.1	1 9.1	0 0.0
	5～10年	97 100.0	36 37.1	11 11.3	46 47.4	1 1.0	24 24.7	10 10.3	1 1.0
	11～15年	123 100.0	42 34.1	20 16.3	60 48.8	5 4.1	30 24.4	15 12.2	0 0.0
	16～20年	56 100.0	15 26.8	14 25.0	21 37.5	3 5.4	20 35.7	9 16.1	1 1.8
	20年以上	63 100.0	14 22.2	18 28.6	9 14.3	2 3.2	27 42.9	10 15.9	1 1.6
	無回答	30 100.0	6 20.0	3 10.0	7 23.3	1 3.3	2 6.7	1 3.3	16 53.3

18. 医療に係る活動時間についてお答えください。

※標榜診療時間 (SA)

1週間の標榜診療時間は「30～35時間未満」が25.3%、「25～30時間未満」が22.6%であり、「25～35時間未満」で47.9%とほぼ半数を占め、「20～25時間未満」が10.3%、「35～40時間未満」が10.0%であり、「20時間未満」は10.8%、「40時間以上」は12.6%という結果であった。

カテゴリー	件数	構成比	
10時間未満	11	2.9	2.9
10～15時間未満	10	2.6	2.6
15～20時間未満	20	5.3	5.3
20～25時間未満	39	10.3	10.3
25～30時間未満	86	22.6	22.6
30～35時間未満	96	25.3	25.3
35～40時間未満	38	10.0	10.0
40～45時間未満	34	8.9	8.9
45時間以上	14	3.7	3.7
無回答	32	8.4	8.4
調査数	380	100.0	

※標榜診療時間以外の活動 (MA)

標榜診療時間以外の活動内容としては、「学校医・園医」が52.6%と最も高く、「予防接種」が38.7%、「健診・検診」が35.5%、「往診・訪問医療」が26.6%と続き、「講演・講義」(16.1%)・「産業医」(13.7%)は2割未満となっている。

カテゴリー	件数	構成比	
往診・訪問医療	101	26.6	26.6
講演・講義	61	16.1	16.1
学校医・園医	200	52.6	52.6
産業医	52	13.7	13.7
健診・検診	135	35.5	35.5
予防接種	147	38.7	38.7
その他	56	14.7	14.7
無回答	70	18.4	18.4
調査数	380	100.0	

開業医の会員に対するアンケート

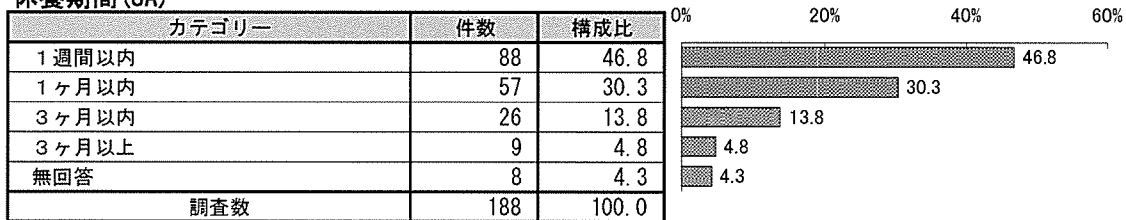
19. 開業してから出産、病気など、やむをえない事情で休んだことがありますか？(SA)

開業後に出産・病気などによるやむをえない事情での休養が「ある」という人は49.5%、「ない」という人は45.5%となっている。

尚、休養経験のある人の期間としては、「1週間以内」が46.8%と半数近くを占め、「1ヵ月以内」が30.3%「3ヵ月以内」が4.8%、そして「3ヵ月以上」と長期化した人が4.3%となっている。

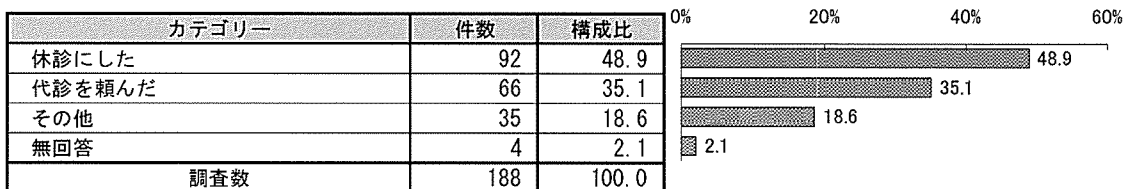


休養期間 (SA)



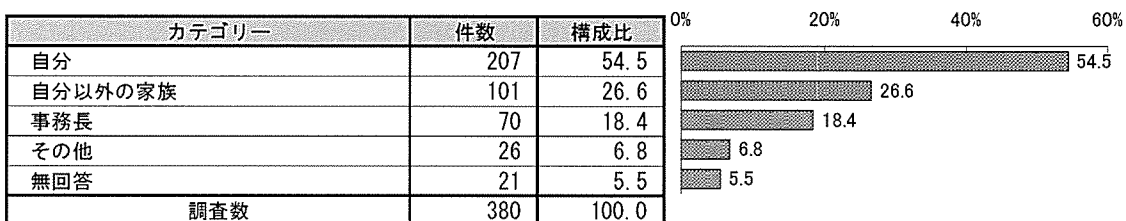
20. (質問19であると答えた方) その間どうしましたか？(MA)

休養経験者のその間の対応としては、「休診にした」が48.9%と半数近くを占め、「代診を頼んだ」が35.1%などとなっている。



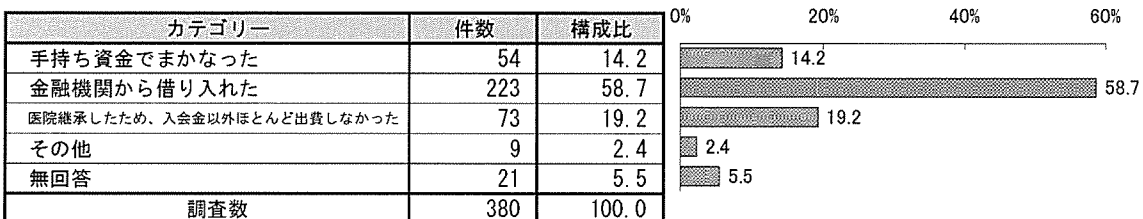
21. 経営における事務的なことは、誰が行っていますか？(MA)

経営における事務的な処理は「自分」が54.5%と半数近くを占め、「自分以外の家族」が26.6%、「事務長」が18.4%などとなっている。



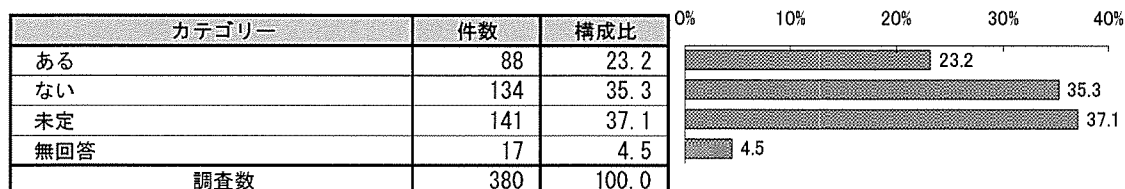
22. 開業時の資金についてお答えください。(SA)

開業時の資金は「金融機関から借り入れた」が58.7%と6割近くを占め、「医院継承したため、入会金以外ほとんど出費しなかった」が19.2%、「手持ち資金でまかかった」が14.2%などとなっている。



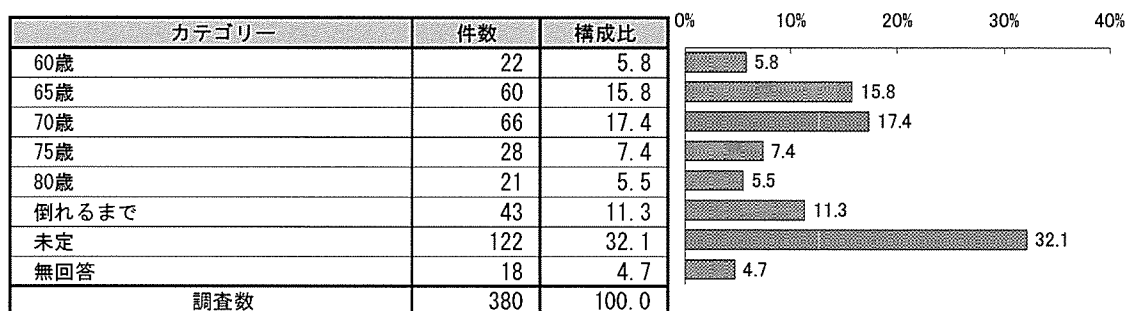
23. 医療機関の後継者はありますか？(SA)

医療機関の後継者は「ある」という人が23.2%、「ない」という人が35.3%となっているが、「未定」という人が37.1%で最も高い。



24. 何歳まで診療を行う予定ですか？(SA)

診療を何歳まで行なうかに関しては、「70歳」が17.4%、「65歳」が15.8%、「倒れるまで」が11.3%などとなっているが、「未定」という人が32.1%で最も高い。



※退職年齢×後継者有無別

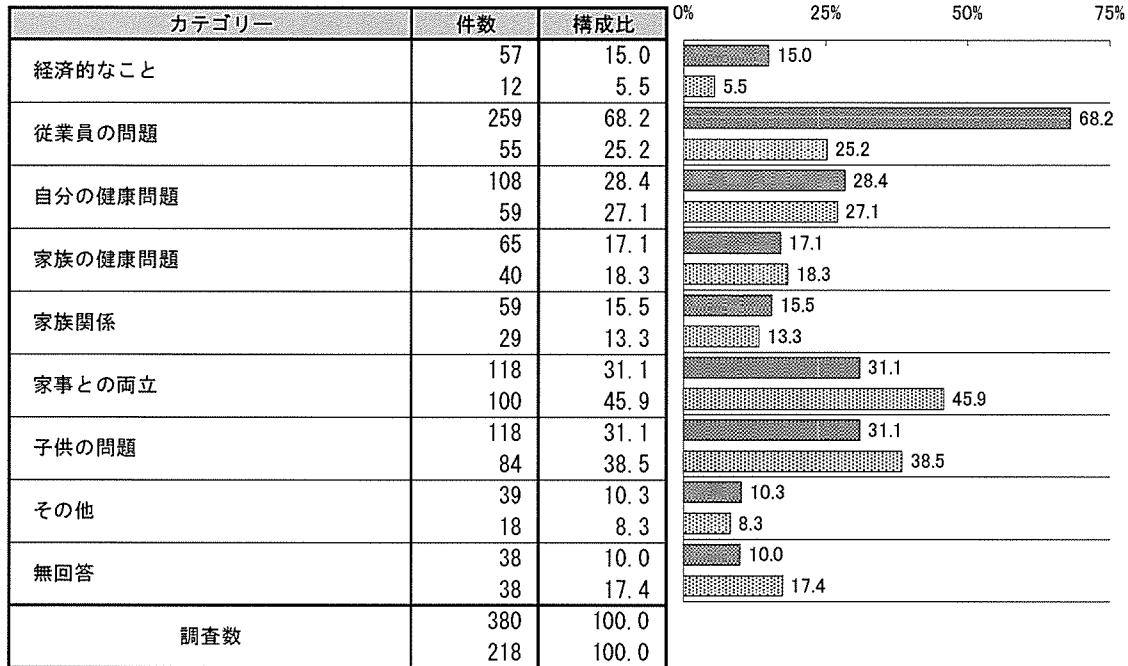
診療を何歳まで行なうかを後継者有無別にみると、後継者がある人は「75歳」が13.6%、「80歳」が11.4%、「倒れるまで」が13.6%であり、「75歳～倒れるまで」が38.6%を占める。そして後継者がいない人は「65歳」が17.2%、「70歳」が17.7%であり、「65～70歳」が35.8%を占める。尚、後継者が未定の人は退職時期でも「未定」が41.1%と高い。

		調査数	60歳	65歳	70歳	75歳	80歳	倒れるまで	未定	無回答
全体		380	22	60	66	28	21	43	122	18
		100.0	5.8	15.8	17.4	7.4	5.5	11.3	32.1	4.7
医療機関後継者	ある	88	1	11	16	12	10	12	26	0
		100.0	1.1	12.5	18.2	13.6	11.4	13.6	29.5	0.0
	ない	134	12	23	25	11	8	16	38	1
		100.0	9.0	17.2	18.7	8.2	6.0	11.9	28.4	0.7
	未定	141	9	26	25	5	3	15	58	0
		100.0	6.4	18.4	17.7	3.5	2.1	10.6	41.1	0.0
無回答		17	0	0	0	0	0	0	0	17
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

25. 開業してから困ったこと、悩んだことはありますか？(MA)

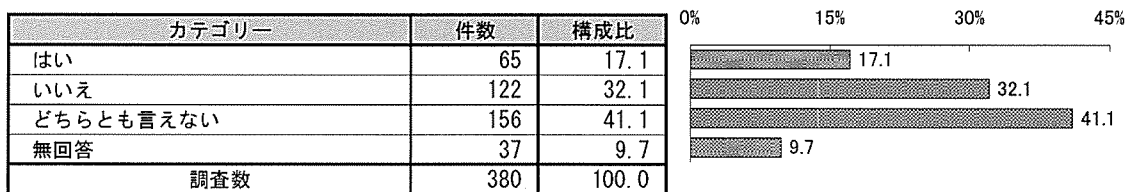
開業してから困ったこと・悩んだことは「従業員の問題」が68.2%と高く、それ以外では「家事との両立」と「子供の問題」がともに31.1%、「自分の健康問題」が28.4%などとなっている。

勤務医の困ったこと・悩んだことと比較すると、「従業員の問題」は43ポイントも高いが、「家事との両立」(31.1%)は勤務医の45.9%に対し、5ポイントほど低くなっている。



27. 女子医学生への助言・相談・臨床実習(プライマリーケア)の見学に応じていただけますか？(SA)

女子医学生への助言・相談・臨床実習の見学に対応できるかでは、「はい」という人が17.1%、「いいえ」という人が32.1%であり、「どちらとも言えない」が41.1%と4割強を占めた。



25. 開業してから困ったこと、悩んだこと／具体的に

【開設者／30歳代】

- ・ 医業で悩むより、経営者として悩むことの方が格段に多い。（従業員の人間関係、賃金体制、クリニック管理等）

【開設者／40歳代】

- ・ 疲れ。
- ・ 従業員と患者の間のトラブル、従業員間のトラブル、従業員とその家族と自分とのトラブルがありました。（結婚問題で）。また、高血圧等成人病に罹患しました。
- ・ 開業して3年はやはり返済もくるしいです。5年経過するとあまり気にならなくなりますが・・・医師会やはり情報を共有するという意味で加入するようにしたのですが、メリットよりデメリットの方が大きいような気がしますね。
- ・ 熱があってもぎっくり腰になっても、出勤しないといけない。子供の学校行事に行けない。
- ・ 金はありません、利益も少ない。少人数だと逆に濃い人間関係になってもめる。やはり仲良しグループができてしまうもともと身体わるいので(片足マヒなど)調子悪くても休めないで治らない。
- ・ 従業員(午後診)が足りないが応募者がいない。
- ・ (2)労働基準法を知らない、勤務医の時のNSや事務と同じように考えているとスキルの低さと労働環境への要望の質の高さにうまくまとめるのが大変。特に当初は事務長もいなかったので雇用に関するクレームが自分に直にきていた。
- ・ (3)開業して2～3年は徹夜や午前様が続き平均睡眠時間が3～4Hしか確保できず肉体的、精神的な疲労(5)開業して2～3年は育児と両立できない自分に対して夫の仕打ちがひどかった(6)開業して2～3年は自宅へ殆ど戻れずやる時間を作るのに苦労した(7)開業して2～3年は子供が0才2才3才と養育に大切な時期を親に預けっぱなしになり、情緒面の問題(子供らが)があり、なかば育児放棄の状況に対する罪悪感、子供の行事に出れない、子供の病児に関われな
- ・ い。(8)社保や生保等、申請しないといけない手続き事項が、それを任せていたスタッフがやっておらず、開業後に外来診療をやりながら、自ら書類を作成して県庁や社保へいかなければならなかった。経営が不安定で、まともな収入は得られなかったため、貯蓄をきりくずした。
- ・ 子宮筋腫、卵巣腫瘍あり、o p e も考えるが、施行すれば、1ヶ月は安静が必要であり、今のところ内服でなんとかしのいでいる。
- ・ 従業員への助言・指導は、同じ内容で男性医師が行うよりも、やや感情的にとられがちなのでは？と感じている。ただし、共感を得られやすい点もあり、女性として可能な限り、生き生きと仕事をやり続けることで、後につづく仕事をもつ女性の励みになれば・・・と思っている。
- ・ 家庭と家事、子育てのために開業したが、いろいろな事情により1人で仕事をするようになってしまった。経済的なことがあり、続けて行くしかないが、医師会の仕事も重荷になり、精神的に苦しくてつらい。
- ・ 子供の受験、学校行事への参加。
- ・ 問題のある職員がひとりいてそれだけですべてが毎日が地獄の日々だった。それから独自のやり方を考え、ナースがいなくてもやっていたクリニックを目ざしました。
- ・ 子供が不登校でいろいろと(学校と連絡をとったり)心配をした。
- ・ 現在、午前診のみで午後診は代診のため、時間的には全く問題ありません。午後診もするようになると担当、家庭での時間の確保は難しいと思う。
- ・ 最終的には優先順位を考え、自分にしかできないことに重点を置くようにしました。全て自分でやろうとすると、精神的にカリカリしすぎて子供と穏やかに向き合う時間がなくなります。子育てはやり直しができません。絶対にぞんざいに扱ってはいけません。掃除は外注とロボット利用。
- ・ ストレスからホルモンバランスをくずし、月経周期がみだれ、現在も産婦人科通院中。
- ・ 子供とゆっくり話す時間がない。
- ・ ③病気になるってしまっただけで、今後の代診 e t c ⑦土曜日の学校行事に参加できない。
- ・ 育児とのかねあい。親がいても離乳食の準備まではできないなど、全面的にまかせられる状態の環境の方は少ない。ましてや開業医は借金もあり、金銭的にベビーシッターを複数やとうなどのゆとりはない。結局は仕事をしたいと思って続ける人が努力する事になる。
- ・ 子供のためにもなるべく食事の用意は私がやることになっていて、忙しい時期はかなり大変。特に夏の時期(子供も夏休みで家にいるため)
- ・ 女性ばかりの職場となってしまうため、甘え(?)があるのか。職員同志の不仲があり、一時は大変でしたが、今は落ちついてます。
- ・ 病気になるときの不安。
- ・ 世間から開業医は楽をして稼いでいると思われている、という風評をきくとあまりに資金繰りにあくせくしている自分の無能さが悲しくなる。
- ・ 子供が病気になる時の対処。
- ・ 経営、労務関係についての知識がゼロであったため従業員問題があった。
- ・ 助産師確保、当直体制(看護師、医師ともに)の確立に苦労。ドクター不足、現在は卒業した大学医局より若い医師派遣してもらっているがいつ切られるか不安。常勤医もやはり女医優先のため困難。
- ・ 基本的に代診は頼めず急用時には臨時休診でしのぐしかない。平日学会等の参加が難しい(休診にしてまで学会に行きづらい)

開業医の会員に対するアンケート

- ・一般的な子供の成長においておこるような問題。
- ・診療、経理、手続きが多くある事。
- ・女性ばかりの職場になるのでぎくしゃくすることが多い。
- ・辞めていただいた方への対応、補充。
- ・忙しすぎて仕事も満足にできない
- ・拘束時間が長くない。休みがとれなくなった。常に仕事をしている状態で、子供と過ごす時間がない。患者数と従業員数のバランスが悪い。
- ・従業員同志の不仲。
- ・子供の相手をなかなかしてあげられないため、精神的に不安定になることがある。

【開設者／50歳代】

- ・1, 育児に十分親がかかわっていないため子供に種々の影響があったのではないかと悩みました。子供が精神的に落ち込んだ時にも十分対応してあげることはできませんでした。2, 健診が忙しすぎです。なかなか休むことが難しいので。
- ・運転資金があることに気がつかず10月開業、12月のボーナスでつまづき、家財をうった。2ヶ月収入がないことを気づくべきでした。
- ・開業と介護と同時にスタートし、出産のタイミングをのがした。
- ・1人で子供を育てることになり子供の精神面での手助けをできなかった。
- ・子供が中学受験の時、十分サポート出来ず失敗した。周囲から(女医)は母親が仕事しているからだ指摘された時には非常に悩んだ。帰宅が遅くなるため朝食の準備が出来ないことがあった。夫の世話を十分できず申し訳なく今も思っている。
- ・仕事と家庭の両立はずっと困難であった。夫、子供にもムリをいっていると思う。
- ・スタッフの採用や突然の退職などは困りました。逆に言えば、それ以外は困ったことはありません。
- ・仕事に適応できない(能力不足)従業員どうしの人間関係。
- ・リーマンショック以前は、人手不足で良い人材が定着しなかった(事務職)。宗教を勧める職員など、従業員同志のトラブル。
- ・急に辞める。
- ・リサーチ程度患者が来ない。
- ・主人死亡の為すべて自分にかかってきて、協力者(主に自分の母)も病気持ちのため手が足りない状態が続いていた。現在は子供達も大きくなり多少手が離れたが、家事との両立が大変難しい。診察の間(午前と夕診の間)は産業医等の仕事があり自分の時間は全くもてない状態である。
- ・医療機関が多い地域なので、特色をだす為。また他職種を雇用するのは難しいことがある。自分一人では診療が成り立たないので、支えてくれるスタッフを育てることが大変でした。今後のIT化の加速が心配です。
- ・A会員になり、日曜当直・夜間診療当番・医師会講演会と家を空けなければいけないことが多い。子どもがまだ小学生で世話をしなければならず大変、子どもの急な病気の時の対応も悩みのタネ。
- ・従業員の確保が困難。家族のための時間の確保。
- ・相談する相手がすぐにいないので診断に迷う事が多い。
- ・子供のささえにはなつてやれなかった。
- ・子供の授業参観や行事、PTAなどに十分出席できなかったこと。子供達だけで夕食を待たせて遅くなってしまうこと。
- ・父が亡くなり継承しました。母子家庭なので相談相手がなく、全てひとりで決めなければいけなかった。
- ・軌道にのるまでは経営の心配(保険請求など、集金)従業員がトラブル患者と接して泣くなど、対応できずやめさせることもできず、クリニック内が女ばかりなので、今後クレーム対応など心配。老後のこと、学会などはなかなか行けず、専門医やめたものもある。
- ・子供が3人いる為保育園～大学への入学式、卒業式の回数を数えたら、とても無理だと思ったので入学式、卒業式はほとんど出席していない。
- ・夫が開業11年で亡くなった。
- ・よい従業員を選び、長続きさせること。人の出入りはいずれにしろストレスです。
- ・有難いことにいずれも少々のことでした。
- ・スタッフ間のトラブル。家族の病気の時の看護。
- ・夜の外来終了が遅くなってしまう。
- ・自分の両親が子供たちの面倒をみてくれたことが、その後の離婚の一つの原因になったと思う。医師を続けるためには理解ある夫以上に理解ある義母の有無が鍵。
- ・問題ある従業員により他のメンバーも迷惑をこうむった。うつ病傾向の従業員への対処の仕方に困った。
- ・すぐに風邪を引いたが、自家診療できないため、適当な薬が出せず、こじらせて中耳炎になり、休診して耳鼻科に通院した。
- ・②. 従業員同志の人間関係が悪化し、退職した④夫のうつ病⑥午後8時～9時になり、家事ができない。
- ・スタッフの統率、仲間内でのイザコザ、仕事にうまくついていけない方にいかにトラブルなく辞めて頂けるか等、悩みはつきないです。ただ、やはり自宅と勤務地が同一なのは両立しやすいです。(自分の時間はなくなりますが・・・)
- ・”あそびヒマ”がないので、きわめてメタボ系成人病の不健康な状態になった。自分の年齢には勝てない。

【開設者／60歳代】

- ・嫁姑問題。医師の子であるということへのいじめ問題。
- ・自分の体調が悪くても、仕事をしなければならなかった。
- ・子供の入学、卒業、病気の折、休めなかった。
- ・従業員同士の仲違い。
- ・人員確保。
- ・開業当初、近くに小児科医院がほとんどなく終業時間が、18時受付終了なのに20時や21時になることもあった。
- ・お盆正月以外に長い休暇がとれない。学会に出られない。睡眠時間余暇への時間がとれない。
- ・従業員を補充するのに募集のちらし等をはったりしてもすぐには見つからず、その間、人のやりくりにとっても困る。
- ・①まわりに同じ科の開業が増えたことで患者数が減少、常勤職員ばかりで勤務年数が長くなり人件費は年々増加、経営時に少きびしく必然的に自分の収入は減少傾向。夕方診療時間をのばすことでやや改善②従業員の人間関係の悪化、少人数の中なのでつらいものがある。全員、常勤にしてぎりぎりの人数でやっているの、病気などで長期休まれた時にかわりがなく困った。（特に看護師は1人のみなので休まれた時は心細く困った）
- ・長男を亡くした事。当時長女もうつ状態で落ち込み途方にくれた。一時代診をたのみ子供に寄り添った。
- ・従業員の病気と退職、その補充。子供の病気。
- ・開業した当初は多忙で患者も多く夜遅く帰宅することが多く子供の成長途中での環境を十分に把握することが出来ずに親子ともに問題を残した。（親子関係）
- ・体調が不良（めまい、高血圧）ピロリ、大腸ポリープなど患者より感染をうけて発症など自分の健康、親の介護、夫との関係、子供の進学、子供の進路、孫、後継者問題。
- ・子供と接する時間が少なく、かつ中々集中できなかったこと。
- ・4、頼りにしていた実母が63歳で急逝した後、認知症の父の介護。7、子供とゆっくり話す時間がとれなくなった。→主人の協力が大きな力となった。6、家事が不十分なことに対するストレス→可能な範囲でお手伝いさんを頼んで無事解決。
- ・早期胃癌の手術をした時。医院の継承。（子供2人共ドクターなので分院もあり）
- ・勤務年数が少ない。
- ・急に従業員がやめるといって自分みずからハローワークにいったり新聞広告をだしたり、知り合いに聞いたりして困った。
- ・考え方にギャップがありすぎる。
- ・夕食を一緒にとりたいたいと思い午後の受付時間を5時と早くした。
- ・通勤に時間がかかる為家事ができない。パートが多くて文句が多い。
- ・1) 自分の技量に対して自信がもてなかった（診療科を変更後） 2) 同業他医との激しい競争 3) 職員同士の確執

【開設者／70歳代】

- ・従業員はいつも悩みの種で自分の都合のよい時にやめるので大変です。主人が脳梗塞で介護保険。
- ・主人が事業に失敗し、病院の手形を出してしまったこと等。
- ・労務管理のむづかしさ、高給でも忙しくてもだめ、院長にしっかりしたひとをおいて管理してもらうことが大事。
- ・子供と接触する時間減少。
- ・（2）最初は従業員がなかなか定着しなかった（4）姉が脳梗塞のため看護を如何にするか。
- ・家事育児の両立が大変でした。
- ・診療、家事、育児、親の介護等忙しくすごしてきましたので自分の時間が持てなかったというのは、ぜいたくな悩みだと思っております。
- ・主人と共に現地で40年近く診療（B会をA2扱い）を続けていたのに、主人が急に病んで（骨折）死亡し、本人が急遽開設者届けをすることになった際、新規開業扱いとして、区の新規開業の料金を支払いました。妻の場合は、継承開業にならないのか、いまだに唯一私が納得不可です。（女性医師の場合、大変な問題だと思いますのでかかせていただきます）
- ・特にないが従業員の問題と経済的なことを考えると十分な医療ができない。
- ・医療事務員に関しては平成20年頃からは希望者も多くて困っていないのですが、看護師は平成14年の開業当時から、ずっと不足しています。パートの希望者はありますが、常勤（とくに夕診で働ける人がいなくて困っています）

【開設者／80歳以上】

- ・70才頃（10数年前）からポストポリオ症候群と同時に脊柱管狭窄症の為最近歩行障害（ワグランド杖使用）はあっても積極的に動くようにしているし、従業員、お手伝いさん、ボリオの会の役員の方々等多くの人に支えられて、もう暫くは仕事したいと深く感謝しながら考えている。
- ・従業員が辞めた時の補充。子供は教育結婚など。医学の進歩におくれること。勉強の時間がとりにくいこと
- ・子供との接触時間が少なく子供から不平を言われるのがつらかった。出来るだけ努力したつもりですが、他のご家庭に比べ子供には気の毒な事だったろうと思います。何かあると理由を自分のせいにしてつらい時もありました。

開業医の会員に対するアンケート

【開設者以外／30歳代】

- ・従業員の平均年齢が高く、私自身よりも10才以上年上の方が多く指示などもだしづらい。
- ・自分のかわりがいないこと。
- ・急な呼び出しが多く、夫が不満を感じている。
- ・看護師、助産婦の確保の問題。仕事のため、子供の生活を知らずに過ごした時期があること。

【開設者以外／40歳代】

- ・学校行事等への出席
- ・開業後、子供の急病時などに頼んでいた実母が癌を発病し、一切頼めなくなった。更に実家の手伝いにも行く必要があり、自宅での家事にほとんど時間がとれなくなった。また、子供の体調に大変気を使わなくてはならなくなった。
- ・看護師不足等。
- ・もう一件継ぐ病院があるが不可能。豊橋医師会は出席を強要する。講演会が数多いが診療(医師会当直含)などと重なるので毎回出席にとっても苦労している。
- ・子供の学校行事に参加できないこと。PTA役員をしなければならない状況におかれたこと。(小学校で)
- ・(2) ナースや事務員の退職に伴い、新職員の採用の募集、教育。(7) 学校行事に参加できない。特に(土)の特別行事(運動会など)
- ・長期入院を要する病気になった子供の付き添いのため、外来診察や当直など他のDr. をお願いしなければなりませんでした。
- ・採用した従業員(看護師)がレジのお金に手をつけていたのにレジ管理をしている事務職員を疑ったため、まとめて辞められた。子供の小さい頃は、子育てと家事が両立できず、家政婦さんに来てもらった。大きくなって手が離れたら家事にまわす時間はできた。
- ・身構えてくるPt、高飛車なPt、etc” 男の医者に対しては絶対こんな態度はとらないだろう”と思う場面にちょくちょくあいます。
- ・自分の姉と主人の仲が悪い。
- ・家族に関して主人の協力が無いのに加え、仕事面では同等の労働を求められるので負担が大きい。(家事、子供の教育等に自由に時間が使えない)
- ・特に子供の教育、進学について親として毎日みてやる事ができなかった。
- ・子供とのコミュニケーションがほとんど取れない。休日どこにも行けず、子供にも負担をかけている。
- ・自己中心的なスタッフが多い。間に入り調整していると疲れる。自分の運動不足で持病の腰痛が持続。子供の就学問題。
- ・看護師の確保。
- ・午後働いてもらえるパートさんがなかなかみつからない。

【開設者以外／50歳代】

- ・殆ど病院で過ごすため家事も全く留守中の状態で人に任せられない。全て自分でする事になる。後継者に困っている。
- ・従業員間の不仲があった。1人のために次々とやめていった。
- ・2)採用してもすぐ辞めてしまう人がいて、また募集しなければならなかったこと。3)病気になって母にしわよせがいったこと。4)子供を受診(他科)させたくても自分の仕事があり、つれていけなかったりしたこと。
- ・専門医が取れなかった事を後悔しています。家族ができた事とは代える事はできないので、これでよいのかと思います。何か方法があったのではと今でも後悔しています。
- ・同じ診療科で二人の医師(夫)での開業ですので、仕事面での意見の違いがあったりします。従業員の数が多く、入れ替わりが激しいことも悩みです。
- ・子供の問題：進学問題。従業員の問題：今はまだ父と診療ができていたので良いですが、1人になった時に患者さんをどう診療していくか、また従業員も高齢化しており、後が続かない。10年後はどうなっているのか想像が付きません。看護師不足は深刻です。看護師が確保できず、診療を縮小せねばならないかもしれません。
- ・資金繰り、定員割れ。
- ・①開業して半年ぐらいは患者数が伸び悩んだ。②開業2～3年以内は従業員の入替りが多かった。今では従業員がふえたので、たばねるのが大変。
- ・子供の進学時に親として十分なバックアップが出来なかった。経理兼務で開業初期は精神的にきつかった。
- ・従業員のコントロールは、ずっと続く問題だと思うので、仕方ないと思っています。開業後、半年以内に夫がうつ病で倒れ、約1年間、私1人で診療しましたが、開業時3男が0才で他に育児を常時みてくれる人がいなかったため、本当に四苦八苦の毎日でした。なんとかやりくりして、今日に至っています。
- ・(2) 従業員の問題は、病院から無床診療所へ変更するにあたり、リストラせざるを得なかった。(6) 家事との両立は小さい頃から、こどもが夕食を食べずに待っているため、夕食が遅くなり、家族に負担がかかる。(7) 子供の問題は、長男が中学生の頃、不登校になり、それまでの親としてのあり方を反省し、子どもとの関係を見直し、のり越えるのに約3年が必要だった。その間休業することはできなかった。
- ・夫と同じ様に、仕事が終了して体が疲れていても、家事をしなければならない。母としてやってやりたい事が、仕事の為に十分できない…など。
- ・助産師、看護師不足。家族で出かけることができない。寝たきりの親の介護etc

【開設者以外／60歳代】

- ・ 教育に目が届かなかった事が多々ありました。
- ・ 同居主人の両親の病気と介護。主人の病気。子供の受験。
- ・ 外傷や病気の時、他人と通院や看護を頼まなければいけなかった。
- ・ 設備投資、借入金の返済が医療収入の大きな部分を占めたため困窮した。
- ・ どこにでもあるトラブルです。
- ・ 院長は医師会役員。自分が診察、労務、経理、家事、全てこなすことのえらさ。

【開設者以外／70歳代】

- ・ 子供が無事に成長してくれるのをひたすら願って働きました。
- ・ 最初から数年前まで自分が病気（あまり深刻ではない、例えば発熱とか風邪気味等）の時も休めないことは苦しかった。又、子供の学校行事にはほとんど出席できず、お手伝いの人、又は主人の母親にすべて替わって出席してもらったこと。
- ・ 産婦人科だったため旅行など安心して医院を空けられなかったこと。分娩とりやめをしてから、やっと人間らしい休暇をとれるようになった。

【開設者以外／80歳以上】

- ・ ナースの確保にいつも苦労してきました。集団就職で地方から来た子は、資格を取ると殆んど出身地の病院へ転勤していくことが多かった。
- ・ ①事務員に脅迫めいたことを言われ、あわててコンピューターに切り替えた。②看護婦が一か年の中1／3は休むので、また休みの申出があったので思わず止めてよ！と言ってしまつて失言してしまった。③とつぜん私が出血性紫斑病で一年余り休んでしまった。家族大学医局の協力で開業継続した。

26. 開業してよかったと思うことをお聞かせください。

【開設者／30歳代】

- ・やりたい事が自分のペースでできる。
- ・子育てしつつもかなり大変だが何とか仕事をつづけられていること。
- ・やりたいスタイルの医療をできている。
- ・ある程度自由がきく。やりがいがある。
- ・①今まで8：45～15：30という時間帯で開院していましたが、子供の受験に対応するために今月より週2日午後を休診としました。こういった調整は自営だからこそできたと考えます。②夜勤がないこと。
- ・昼休みなど空いた時間に家事がこなせる。日、祝日は子供と過ごせる。当直がない。バイトで総合病院の外来だけ働くよりは、やりがいがある。
- ・転勤がなくなった。賃貸でなくなった。

【開設者／40歳代】

- ・やはり、患者さんがよくなったりすると意義を感じます。
- ・地区住民とのふれあいがよい。
- ・診療の形態を自分で決めることができる。(思い切って休もうと思えば休める)。使いたい薬剤を使える。
- ・仕事と育児(家事)の両立ができる。
- ・自分のペースで自分のやりたい医療ができる。
- ・子供を連れてこれる。(別室でシッターさんにみてもらえる)
- ・自分のペースでできる。
- ・地域貢献できたこと。
- ・ある程度自分で予定をたてられる。
- ・お産をやめているので時間外が少ない為、夜寝られる。
- ・夜勤当直がなくなった。
- ・開業後2～3年は苦しかったが人材も集まり、育ち、夜7時には帰宅できるようになって、ゆっくりはできないが家事・育児が9割方両立できるようになった。勤務医では19時帰宅はありえなかったのだ。
- ・自分の時間は僅かではあるがもてる。
- ・当直がなく、身体がラクである。
- ・自分が力を入れたい分野の仕事を、たとえ保険点数が高くないものでも(むしろ勤務医ではあまり良い顔をされないため)特化して行うことができた。仕事の内容は、収入よりもずっとモチベーションの維持につながるものだと思っている。
- ・上司に気遣うことなく年末年始お盆休みをとれる。
- ・やり甲斐がある。家事、育児との両立ができる。(何とか)
- ・好きな医療ができる。
- ・休日が好きなようにとれること。
- ・仕事以外にやらなければならないことに、時間をとりやすくなった。以前は総合病院で時間的に余裕がなかった。自分で決定し思いどおりに実行できるのが楽しい。
- ・自分のペースで仕事を進めることができる。子供が病気の時は、院長室でベビーシッターと一緒に過ごさせることができる。
- ・自分の居場所、大学だと自分はなかった。患者から「先生に大丈夫と言ってもらえる、安心する」と言われた時。
- ・沢山のひとと出会えた、生きがい、目的を持てた。
- ・夜は殆んど家にいられる。
- ・病院勤務の過重労働から離脱し、自分の時間が持てるようになった。
- ・家庭も大事、子供も大事。でも医師としての仕事も大事。どんなに女である事で医師であり続ける事が大変でも、やはりやりたい仕事を続けられている上で日々医師として働けてよかったと思う。
- ・やりたい医療ができる。
- ・通勤時間がほとんどなくなった。
- ・自身の専門分野で地域の皆様によるこんでいただけるクリニックをつくれたこと。
- ・自分自身の医療の目的について思う存分追求できる。
- ・自分のペースで仕事ができる。
- ・自分のペースで仕事ができる。家族(子供)のための時間の調整ができる。
- ・通勤時間がゼロ。
- ・患者とじっくり信頼関係を作れる。患者さんが治療後や分娩後喜んでくれること。
- ・当直救急がなく、自分のペースで仕事ができること。
- ・自らのペースで診療ができる。外来のみなので、病院勤務時のように休日の緊急対応がない。
- ・患者さんが信頼して来てくれること。
- ・すべて自分の責任である事が明らかである事。

- ・平日に休診日があること。勤務医の時よりもやりたい診療ができ、やりがいにつながる。
- ・仕事の内容や売り上げなど、他人からあれこれいわれないこと。
- ・時間が自己管理できる。
- ・子供と接する時間が増えた。多分親が喜んでいる。
- ・子供が近くにいるので様子をみることができる。
- ・自分を含め、女性の生きざまを考察する時間やチャンスを得られた。
- ・当直で一泊の仕事はない。
- ・社会的な立場が安定している。

【開設者／50歳代】

- ・上記1で開業していたので、少しは家族と過ごす時間もとれ、経済的にも余裕が持てた。もし勤務医であつたらもっと大変だったと思う。
- ・自分のしたい医療ができる
- ・子供が帰ってきた時「お帰り」と言って顔を見れること。朝、自分の出勤時間を気にすることなく送り出してやれること。
- ・自分のしたいこと、してもらいたいことを、医療に反映できる。子供とおしゃべりできる。
- ・自分のペース、自分のやりたい医療を即、実行に移せる。失敗も成功も全て自分にかかってくる面白さ。
- ・夏、冬の休みを自由にとれる。仕事の時間を自分で決められる。
- ・勤務医時代よりも時間の自由があることのみです。
- ・患者さんや職員と良い人間関係を作れた。
- ・自分のペースで仕事ができたと。 (私は継承のため、それほど経済的ストレスがなかったので) 子育て、親の介護とそれなりに手をかけることができました。
- ・リスクもあるが自由度が高い。
- ・自分の考える医療が出来る。
- ・収入が増えた事。夫が一人の医師として扱ってくれる様になった(気がする)。
- ・ある程度、自分で自由に時間調節ができる。
- ・子供と過ごす時間をやりくりできる様になった、学校行事等にも出席できる様になった。
- ・自分の理想とする医療ができています。
- ・人に使われない事。
- ・自宅に隣接のため、昼に家事をしたり、学校行事に行ったり、時間のやりくりが出来るようになった。
- ・自分で思っていた以上に経済的にゆとりができた。
- ・昼間に家に居られるので、夕食の支度ができる。
- ・時間的にこうそくがなくなった(会議等) 当直がなくなった。
- ・時間を自分で管理できること。
- ・子育てで大事な時期に時間を作ることができた事。自分の時間を作ることができる点。
- ・父から継承で、まだ父も診療をわってくれるので、勤務より少しだけ融通が利く。
- ・自分のペースで仕事ができる。
- ・自分の城で自分のしたい医療ができること。
- ・比較的子供の近くにいる時間ができたこと。
- ・夜中に呼ばれないので睡眠時間が確保される。急な呼び出しがないので、自由時間が有効にとれる。
- ・家事をする時間が増えた。昼休みが長いので(2~4時間) 学校の行事にも参加できることがある。
- ・自分のペースでできる。
- ・収入が以前よりよかったこと。夏、冬の休みが自由にとりやすいこと。
- ・医師になるのは子供の頃からの希望でした。離婚してからでも経済的に不安はありません。医院と自宅は隣接しているので子供も育てることが出来ました(母や妹の力もありました)
- ・徹夜で当直、そのまま翌日手術という様な無理がなくなった事です。
- ・診察時間、診療日を自由に決定できること。
- ・自分の時間が自由になること(休診すれば即収入減であるが) やりたい仕事ができること。
- ・患者とじっくり話せる。自分で時間を調整して趣味などができる。
- ・勤務医時代は一人赴任だったので、正月日GW日入院患者の為に休暇が制限されたが、開業後は休診の日は休みをとれる点が一番よかった。
- ・自分のペースで仕事ができる。
- ・重症患者や緊急迫切の立ち合いなど、勤務小児科は時間外の緊張を強いられる仕事が多いが、開業医は自分のペースで仕事ができ、予定が自分の都合でつけられる。
- ・自分のやりたいスタイルでできる。
- ・時間がゆうずうできる。子供の小さい時は2人で開業しており子供を2人でみることができた。
- ・通勤時間のロスがない。自分で、仕事の質が(できること、できないこと、やれること、やれないこと、やりたくないことetc) が決められる。空き時間に家事が少しだけだができる(家人と話をする時間もとれる)。

開業医の会員に対するアンケート

- ・職住一致のため、時間的余裕ができた。
- ・経営者にならなければ世の中見えていなかったことがたくさんあることに気づいた。
- ・患者様一人一人とじっくり向き合い診療にあたることができる。
- ・大学病院、市中病院ではマニュアル的要素がどうしても先に立ちましたが今は人間関係を更に重きをおいた医療を味わっています。
- ・自分の時間が勤務医より持てる様になった。
- ・有る意味自分のライフスタイルにあわせてコントロール可能。
- ・自分の意思で仕事を続けることも辞めることもできる、という自由がある。
- ・時間に余裕が持てた。（緊急時）呼び出しなどがないため。
- ・長く続けることができる。
- ・夜間に働くことが無くてよかった。
- ・患者さんの事情がよりわかるようになった。自分の体に余裕ができ疲労の蓄積がなくなった。
- ・体力的に楽になった。
- ・勤務医の時より子供の問題時に融通がきく。
- ・医療に社会的使命がある以上、かなりの束縛はありますが、”自院”ということで、ある程度自分の自由がきく。（診察時間や内容など）ということでしょうか。
- ・自分が動かせるお金ができたので組織云々にとらわれず、好きなことができる。当院では、女医三人で日常業務を分担し、それぞれが自分のやりたい仕事をやるため時間が必要なとき（海外学会出張など、もちろん子供の入学式も）には融通している。収入も当然三分割であるが、そういうスタイルを選択して維持できている。これ以外にはありえない。女医に限らず、どうするかの前に、何をしたいのかであると思うが・・・日本では知られていないメソッドを日本へ導入するために外人講師を呼んで普及する活動をしている。
- ・休日や仕事量（時間）を自分が決定できる。

【開設者／60歳代】

- ・自分のやりたい医療ができたが、反面、時間の区分が難しい。
- ・地域医療に微力ですがお役に立てているかなと思うことです。
- ・自分のペースで活動できる。地域に貢献できる。
- ・仕事のしがいがある。
- ・子供との接触時間が長くとれてよかった。子供の行事中心に休診にする事が出来た。
- ・重症患者は病院へ紹介するので精神的負担が軽くなった。自宅と開業地が隣接しているので、家事との両立がしやすくなった。
- ・自分の自由、裁配で休診し、好きな理想的WSに出席可のこと。
- ・自分の欲しい器械が使える、自分の方針で医療ができる。
- ・地域とのつながりができた。開業医が大変ということがわかった。
- ・61歳という年齢でも、健康であれば、又仕事に対しても真摯であれば十分働き、勉強し、地域の人々にも感謝される。
- ・自分のペースで仕事ができる。
- ・自分で良いと思う薬が使える。
- ・年令相応の働き方で働き続けられる。高収入。
- ・当直がないのでその分体が楽、勤務医時代よりは収入が多い。
- ・子供が小さい頃（小学生以下）は職住隣接のため診療の合い間に様子をみることができ、また子供も帰ってくるとクリニックの休憩室などで宿題をやったりと目が届いてよかった。また午前と午後の休診時間に家事を片づけることもできた。また向より自分で働き方を決めることができた。（診療時間帯など）
- ・子供が小さい頃大変だったが食事などすべていっしょにすごせたこと。
- ・家に引きこもらず色々な年令相・職種の方にめぐりあい視野を広げられた事。
- ・自分のペースで好きな仕事ができること。
- ・自分のやりたい医療を時間や内容の制約なくできる。付き合いの範囲が広がった。身体の負担が少なく楽になった。
- ・自分のやりたい医療を自分のペースでやれる。
- ・収入が安定していて経済的な不安がない。生活設計をたてる時に経済的なことで足がせになることはない。
- ・時間に余裕ができた。自分のやりたいことができる。自己責任で代理医を雇用できる。
- ・職住が一緒なので家事や育児に比較的時間を割けたこと。
- ・自分自身が「良し」とする医療を少しでも実現できること。病院と比較し従業員が私の医療を少しでもやりやすい様に協力してくれる。（協力してくれる様に教育できる）
- ・患者に喜んでもらえること。
- ・地域社会に少しは貢献できた事、経済的にほぼ安定していた事、男女の能力差をあまり感じずに仕事が出来た事。
- ・体力に応じて診療時間を縮小。
- ・夜間診療ない為。
- ・高収入が得られる。地域の人々と仲良くなることができる。
- ・自分（家族）の用事に合わせて臨時休業できた事。

- ・ 自分の責任であるから気が楽な点がある。上からのノルマがない。
- ・ 通勤時間がかからない。自分のペースで診療時間を決定できる。
- ・ 勤務医より労働時間が減った。
- ・ 定年がない。仕事と休みの区別が明確。どうしても休みたければ休診にできる。
- ・ 自分の医療ができること。
- ・ 二人の娘がドクターになった。
- ・ 困難をのりこえることの喜びを知った。

【開設者／70歳代】

- ・ お休みを利用して海外旅行にビジネスで出かけられる事。
- ・ 自分が思う様な仕事が出来たこと。総合病院に出来たこと。
- ・ 自分のやりたい医療ができたこと。
- ・ 僅かでも人の役に立てれば幸いです。
- ・ 自分の考え通りに診療出来る点。
- ・ 自分の意思による開業ではありませんでしたが、体力に合せて現在まで継続出来たのは恵まれたことだと思います。
- ・ 勤務医の方が私の希望でしたが、主人の都合で開業となりましたが、いずれにしろ私は私を信じて、体調不良のときは訴えをおききし、指示指導し、症状軽快すれば共に喜ぶ患者さんに恵まれてきましたので、医師は私の天職の仕事と思っています。私の可能の範囲で今後共勉学に励み、患者さんと共に歩んでいけることは、私の至福の喜びです。
- ・ 自分の性格に合っている。
- ・ 勤務医に比べて自由な時間が持てるようになった。
- ・ 経済的には比較的楽でよかった。医師も大変興味深く仕事が一生涯続けられたのはうれしい。
- ・ 自由な時間がある程度ある。
- ・ 育児をしながら仕事が出来たこと。
- ・ 病院勤務中は、小児科は弱小で収入が少ないため、スタッフの数も制限されていました。開業してからは受付、診察室、処置室に常時1人はいられるように配置。収入は人件費で消えてしましますが、何とか自分の思いの通る外来をやっています。
- ・ 仕事が続いた。

【開設者／80歳以上】

- ・ 基本的に自由であること。
- ・ 唯、いたづらに毎日を過ごして今日に至りましたがもう少し働ければと思って居ります。
- ・ 余暇を自由に使えたこと。60才代迄はゴルフ、旅行、陶芸、音楽など、楽しむことが出来た。
- ・ 経済的にはよくなった。
- ・ 診療所と家が同じ敷地内のため、子供の様子がわかります。
- ・ 医師会官舎にて他の先生方との交流、勉強、講演会の出席の機会がふえること。子供の問題もいろいろあるが、勤務よりは接触の時間の多いこと。
- ・ 自分の好むように仕事をする事が出来た。
- ・ 家事専業の方よりは女として自由に生活したと思います。戦中戦後育ちの時代の者としての考えです。

【開設者以外／30歳代】

- ・ 勤務医時代よりも患者様1人当りの診察時間がとれるため詳細にお話を聞ける。
- ・ 休診を決めれること。
- ・ 通勤時間が短い。収入が安定している。
- ・ 勤務時間(当直含)は一時にだいぶ増えたが、家族の協力が得やすいこと。

【開設者以外／40歳代】

- ・ ①一人の患者さんと深く長くお付き合いでき、健康管理にたずさわる事ができる事②治療がやりやすくなった事。
- ・ 夜間眠れるようになった。(勤務医時代はオンコールが多く十分休養とれなかった)
- ・ 自分のペースに合せて仕事ができる。
- ・ 午後の昼間の時間を家事や学校行事にあてられる。
- ・ 毎日の仕事に追われているためあまり良い点は思い浮かびません。ただ、充実感はあると思います。
- ・ 地域で開業し、多くの地元に住む人達がわかるようになったこと。病院にいた頃より、患者さんと人として生活までふみこんで医療ができるようになったこと。
- ・ 対患者との関係が濃くなる。
- ・ 地域の方が喜んで下さるとき。
- ・ 自分の父の医院を継承したため、患者さんから父のことをきくとやはりうれしくなる。また患者さんからありがとうございますと言っていただくとうれしかったと思う。
- ・ 地域に根ざして多少なりとも役立っている実感がある。

開業医の会員に対するアンケート

- ・ 時間的な融通がきく。
- ・ 子供が病気になったときに、職場が実家となったため、困ることがなくなった。（祖母に世話を頼むことができたから）
- ・ 自宅と同じ建物なので入学後は子供をあずけなくても留守番ができるのでよい。

【開設者以外／50歳代】

- ・ 自由に休業できること。
- ・ 患者さんとの信頼関係がつくり易い。
- ・ 当直（全科当直）をしなくてよくなった。
- ・ 少しは時間的な余裕ができた。
- ・ プライマリーケアが自分の性格に合っている。
- ・ ある程度時間の融通がきく。（運動会や授業参観、入学式、卒業式などでは休診にした）
- ・ ある程度自分のペースで仕事やそれ以外の時間がとれる。
- ・ 仕事と生活の場が一緒なので、移動の時間がなく勤務医と異なり仕事の融通がきく。
- ・ 家事との両立がやりやすい事がとてもよかったと思います。仕事場と自宅が一緒なので家族の様子をみながら仕事ができる事もよかったです。
- ・ 休暇（夏季、正月など）を自由に取れる。収入が多い。
- ・ 時間をある程度設定できる。
- ・ 朝ギリギリまで寝ることが出来る。
- ・ 通勤時間ないこと。
- ・ 夫も小児科医ですので、時間を分けて、忙しいときだけ二人同時に診療しています。土・日や昼間等、他院が閉まっている時間も開いているので、地域で少しでも役に立てているのではと思います。
- ・ やりがいがあります。
- ・ やり甲斐があり充実している。地域との関わりで貢献している満足感がある。
- ・ 自分のやりたい医療がやれる。
- ・ 時間に余裕が出来た。時間外勤務がなくなった。
- ・ 患者さんと、心の触れ合いができて、本当の意味での医療を提供しているという充実感がある。
- ・ 子供の学校行事にある程度参加できる。
- ・ 自分の方針で診療できる点。
- ・ 地域医療に深くかかることが可能。

【開設者以外／60歳代】

- ・ 自分の能力に応じた患者のみ診ることができる。重症な方は紹介している。
- ・ 医療をしつつ、子供の教育、親の介護、主人のバックアップを行ったこと。
- ・ 自宅での仕事なので、子供との接触時間を持てたこと。退勤での時間ロスがない。
- ・ 医院と自宅が同じなので時間を有効に使えた。
- ・ 2代、3代の患者さんを診る機会もあり話がしやすいし、又若い頃に学んだことを基にして一つの疾患の治療迫施をじっくりと診る機会をもてよかった。
- ・ 仕事が好きだから、好きなように思う存分仕事ができる。
- ・ 通勤時間かな。
- ・ やりたい診療をある程度満足できる位ですね。看護師が協力的でやりやすい。地域の中で、家族や学校等社会背景を把握して診療できる。
- ・ 自分スタイルが出来る。

【開設者以外／70歳代】

- ・ 多くの人に出会って色々学ばせていただく事が出来て本当に仕事をつづけていて良かった思います。幸い人に恵まれて又助けられ、自分も健康で働く事が出来感謝しています。
- ・ 子供三人を養育し、内二人のドクターをつくり。一人後継者として充分続けていてくれる。
- ・ 何といっても自分で1人の患者さんを苦しみから救い感謝され、3代に渡って来院してくれること。若い時はどれだけ患者がつめかけていても張り切って自信を持って、それに答えられる自分がはつらつとしていて、世のためになっているのだと、自覚していたことなど。
- ・ 経済的にらかったこと。盆や月休みの決定は自分で勝手に決められる・

【開設者以外／80歳以上】

- ・ 自立できたこと、親への仕送りができたこと。
- ・ 家族と両立出来たこと。
- ・ 地域医療で多少でも患者さんに感謝された事。
- ・ 自宅と同設であったので、通勤時間がなく大変よかった。
- ・ 子育てに対してよかったと思う。家の中に母親が働いているということは、子供たちの安心につながっていたと思う。

28. その他、ご意見がありましたらお書きください。

【開設者／30歳代】

- ・医師不足は女医の仕事、継続者数の増加によって多少解決できると思う。もう少し社会的環境を整えてほしいです。
- ・女性医師の就業環境の整備がよく問題にされます。しかし、やる気のある女性医師もいらっしゃいますが、お医者さんの夫をもち、始めからパートでと考えている方も多い印象を受けます。女性医師自身の働き続ける意志も重要だと思います。

【開設者／40歳代】

- ・腰かけ的な気持ちでなく、男性と同等に働く意欲を持てる様学生時代からの教育が大切。同時に実際に子育てしながらフルタイムで働く先輩医師が側にいると見本として生きやすいと思います。
- ・これから医療、経営ともやっていけるか不安です。医師自身も更年期障害、骨折もときになりまして、ガタガタでございます。
- ・私は、シングルマザーになった後に医学生→医師となりましたので8項目の質問には答えられませんでした。夜勤当直に関しては年齢も考慮されると良いと思います。
- ・開業にせよ勤務医にせよ女が一人前に仕事をするのなら、夫や家族の職場理解と協力は必須だと思います。結婚や出産で一時的にブランクはあっても、一切仕事をやめるのは社会的損失だと思います。
- ・医師という仕事の責任、患者からの信頼などを考えて、仕事すべき。中途半端に仕事をして経験を積むことはできない。継続することが大切。
- ・看護師不足といいますが、注射もうてない人ばかりが、世間にはふえているようです。病院では必要でしょうが、個人クリニックにはもうナースは必要ない日が来ると思います。医療もかわっていくと思います。
- ・不安なことや困ったことがあれば、積極的にまわりの方に相談して下さい。SOSを出すと誰かが良い答えを教えて下さいます。
- ・1人の医師が育つまでにたくさんの税金が投資されています。できれば何らかの形でパートでも良いので社会貢献して欲しいと思います。医師になる為の荒波を乗り越えてきた皆さんですからそのパワーはあるはずです。心から応援しています！！
- ・診察に忙しい時期と暇な時期があるため、忙しい時は困ります。女性医師の医療の役割をうまく使い分けてほしい。
- ・人は家庭をつくり子を育てる人生があり、人生によって働き方が変わるの、医療以外でも当然である。医学生のうちから女子学生だけでなく、男子学生にも家庭を持ったら、仕事との両立が男性も必要であると教育すべきと考えております。又開業医を選んだ理由として”地域医療に”という理由もたしかにあるが、勤務医として、当直の交代など、女性の子供を理由にした場合に、急激に仕事の評価が下がる現状がある。開業医であれば他の医師と同じ時間働いているという正当な評価が得られる為、診療所を行っているという理由が大きい。「勤務医時代「仕事も家庭も中途半端、何がしたいのか」という言葉は忘れない。
- ・家内制手工業のような時代遅れの存在だと自分のことを思うこともある程、手作り感にあふれた医療をしているけれどもおそらく未来はない。
- ・大変なこともあります、女性医師だからこそできることもたくさんあります、妊娠、出産、子育て、全てが臨床上でも役に立っています。
- ・開業医として保育の支援システムは全くありませんでした。出産時は代替は個人的に探しました。今でも特別な保育、家事のための援助はないようです。育児、家事の都合に合わせて仕事をやりくりしています。もっとも男女に限らず支援はないようにも思います。
- ・医師にかぎらず、女性が責任ある仕事を家庭と両立させるのは、ものすごく大変です。体力と精神力のある人しか無理だと思います。

【開設者／50歳代】

- ・仕事をペースダウンしないで、両立するには誰かに協力してもらわなければ無理だともおもいますが、もし仕事のペースダウンを可とすれば環境を整えれば、かなり多くの女性医師がもっと仕事が楽に続けられるのではないかと思います。(続けたとしても、事情が許さない人も多いので・・)
- ・子供が小さい時に、保育園で得た、ママ友が強い味方でした。他業職の人と、かかわるいい学びでした。
- ・勉強だけできて医師になっても開業となると、生活としての人間性がすぐ反影されるので人間としての資質を十分養って下さい。
- ・医師会の女性委員が増えることを希望します。
- ・このアンケートに答えながら、自分は家族に支えられ仕事をさせてもらっていることに本当に感謝しなければいけないと感じた。男性と同じ様に働いていて感じた事は男性は大変だと言う事。男性社会に迷惑かけない様にひっそりと末長く仕事が続けられるといいと思います。
- ・自分一人で仕事していくならよいが、他の家族、夫、子供、両親、兄弟などとの協力がないと、なかなか、仕事をつづけていくのは困難だと思う。協力してもらえよう、常に努力が必要だと思う。
- ・私は、子供を持っていないのであまり参考になる意見は言えません。女子学生の方には、頑張ってくださいたいです。子育てと仕事の両立は大変だと思いますので。

開業医の会員に対するアンケート

- ・以前はおそろしいほど、人間としてみられなかったと思う。よく死ななかった。
- ・どんな条件下でも、自分の能力を高めるべく、継続していく事が大事だと思います。卒業時に女性特有の問題（結婚出産など）とどう付き合うか、話を聞いたりしておくことは有用だと考えます。
- ・女子医学生はまじめに勉強し、成績がいいから、医学部に合格できますが、その為におしのけた男子達のことを思い、一生医者続けてほしい。（我が子がダメ男君なので最近特に感じます）
- ・妊娠、出産年齢がちょうど研修医頃に重なる為、臨床経験に自信が持てなくなる。再教育の場が多いと助かったと思います。
- ・「これだから女は…」と言われたくなくて、独身時代は男性と同等にあつかってもらい、当直等も同じようにこなしていました。（勤務医でした）結婚を機に実家にもどり、子どもが小学校入学と同時期に継承しましたが、A会員になると地元医師会の行事（勉強会等含め）が多く平日夜出かけてることが増え、家事、育児に支障をきたしています。子育て中は少し免除制度がほしいです。
- ・身近に自分の親がいないと、勤務と子育ての両立は困難。
- ・死にものぐるいで動いてきたというのが正直な所です。若かったからやれた。家庭内の男女平等がもう少しあった方がよい。今の若い人は、男の人も協力的になったとは思いますが。私は自分の身内が4人交替で助けてくれたので何とか続けられたと思う。
- ・やわらかい頭でしなやかに生きることだと思います。
- ・結婚して子供がいればどの職種でも仕事を続けることは大変だと思います。女医だけが大変という風潮がある様に思います。両立できる状態を社会全体で取組む必要が大切なのは確かですが、個人的な努力、工夫が最も必要と考えます。
- ・出産、育児、離婚など、女性の経験を一通りしたことで、同世代を含めて、女性の悩みや苦しみなど理解できることが多くなった。
- ・やはり、家庭との両立はたいへんだと思います。身体をこわしたり、不妊、子どもへの負担などにつながっていくことも多いと思いますが、その都度、臨機応変”女の人生七転び八起き”（樋口恵子著）です。
- ・お膳立てしてもらって来るような人のお相手はできませんが、具体的なアイデアを探している方ならどうぞ。

【開設者／60歳代】

- ・若い頃には、勤務医であり続けたいと思っていましたが、今現在は、開業医という仕事を続けている自分は幸せであったと思います。
- ・女性が生育てや家事と両立しながら開業する時は、職住隣接が必須だと思います。自分が健康であることも大事です。子供が小さかった頃はやはり実家の母にずいぶん助けてもらいました。（車で5分の距離）
- ・眼科後継者を探しており、もし出来る事なら女性の医師で将来開業希望の方で、まだ子育て中でフル勤務はむづかしいと思っておられる方、少しは外来のお手伝いを私が手助けしたいので。
- ・少ない自分の時間をさいて、趣味でリフレッシュしています。年も多くなったので、仕事は減らしていきたい。
- ・医師になった以上は人生設計においては医業を続けることを何よりも優先する必要がある。
- ・非常に困難な道であったと思うが、娘が産婦人医となり孫を出産、再び常勤医として復帰してくれたので、私自身の自分の生き方を肯定してくれていると思い、それが何よりの喜びである。又はげみでもある。

【開設者／70歳代】

- ・私達の時代は女子は仕事するなら、自分で自分の事をしなくてはならず、勿論産休等ありませんでした。そういうこともあつてか自分自身自分の出産を経験しないですんでしまいましたが・・・今の方がその点恵まれていると思います。
- ・開業するには、経営者の資質が必要です。医学だけではだめだと思っています。
- ・開設者の夫が急死した場合、開業以来、共に診療していた妻（配偶者）は継承扱いにならず新規開業扱いとなるのは全国的（日本の）基準なのでしょう。
- ・現在と私達の時代とは社会状況も違うから参考にならないかも知れない。
- ・結婚に協的な夫をえらぶ。

【開設者／80歳以上】

- ・私達、昭和の時代はクリニックの従業員にも、家事手伝い（住み込みも）を頼むことが出来たので、仕事も余暇も充分満足して打ち込めたことを深く感謝している。
- ・開業して35年程たったある日、予防接種について、とんでもない中傷の電話を保健所にされた。関係の県の部局にも連絡され保健所からTELが入ったのである。私はびっくりした。規則通りに行っているのに、どうして中傷されるのか。まったくわからなかった。その内容は「注射針を使いまわしている」という内容であった。今どきの時代にそんな事を行っている医療関係者はいるであろうか。地域医師会会長にこの旨を相談した。会長は「今どきそんな事を行っている者はいないだろう。ありえない。HCLにTELしときます」といって下さり一笑にふされて勤務医においても開業してからも誠意ひとすじに医療を行ってきた。何故中傷になったのか全くわからないことであるが、ある方面のたくらみであろうとは思った。
- ・この職業をえらんでよかったと思う。人としての生きがいを感じ、多くのことを多くの先生方や同僚、患者さんから学びました。今老齢にて外に出ることは少なくなりました。
- ・折角、身につけられた資格。学問を生かして充分に働いてほしいと思います。自分の老後の満足感にもつながると思います。

【開設者以外／30歳代】

- ・特にすごく頑張って仕事をしようとしているわけではないが、回りの助けでなんとか続けられていると思っています。
- ・最も大切なことは、家族や職場での周囲の理解があるかどうかで、育児であっても通常か、それ以上の勤務が可能であると実感します。（当直等含）

【開設者以外／40歳代】

- ・講演会に強要、強制、おどし（欠席の場合～予防接種e t cができなくなる）は反対です。必須なら予備日などをもうけて下さい。家事、診療、夜間当直、講演会の4つの同時は不可能です。1人で開業するのはおすすめしません。
- ・出産時に十分に休みが取れないのも問題がありますが、小学校～中学と多感な時期に十分に子供に向き合う時間や世話をする時間が取れないのも問題かと思います。それが開業している状態であっても時間は自由にとれませんでした。
- ・開業すると、自由が少しできるイメージがあったが逆できちんとした休みの時間がきまって取れないので精神的な負担が大きい。配偶者の協力がとても重要だと思います。
- ・助言等えらそうなことはできそうにありません。自分のことでせいっぱい。毎日ギリギリのような感じです。

【開設者以外／50歳代】

- ・国公立医学部卒業女子は、国費をかなり使って教育育成されているはずなので、一生のうち何年かは必ずお礼奉公させるべきです。
- ・私にとっては今の仕事の仕方が家事と仕事を両立させる最良の方法です。（主人が院長の開業医で、週1回実家の診療所でも働いています）
- ・大学卒後、結婚、出産、子育てと最も勉強しなければならない時と重なる為、どんな方法をとるのかとても難しい。男性医師から、子供のために早く帰ったりして女医は同等ではないという言葉をよく聞いた。
- ・現在は学会や講習会にも保育制度があり、便利になったと思います。当時（子供の小さい時）は本当に苦勞しました。
- ・夫と二人で開業すると、さまざま意見の違い等でケンカをしたりすることがありますが、子供を育てながらは大変うまく仕事できると思います。大事なことは、子育てに入る前までに、いかにスキンシップしておくか、ということです。子育てはどうしても女性が任うものなので、男性医師のようにゆっくりしてはいられません。開業医レベル等の知識や経験をただ独身のうちに得るべきだと思います。
- ・家庭や育児に対する自分自身のこだわりによって、仕事の量も変わると思うが、国家資格という社会的責任はきちんと認識し、どんな時でも、プロ意識を保ち続ける努力が求められると思う。そして、女性であることをプラスに生かす仕事ができるよう、謙虚で更に前向きに生きていけたらいいと思っています。
- ・アンケートを取るだけでおわることの無い様に、女子医学生、女性医師のサポートをしっかりとして下さい。

【開設者以外／60歳代】

- ・家族構成が3身等から2身等に縮小され、子供の養育が変わってきて価値観の違いが難しくしているように思います。

【開設者以外／70歳代】

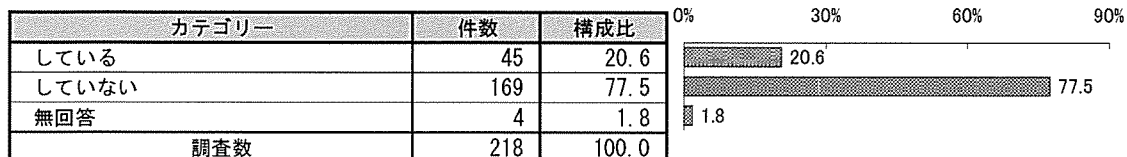
- ・人にはそれぞれ適職があると思います。自分が好きでやれる仕事ならば、少々ハードでも喜んで又感謝して働けると思っています。IQの高低ではないと思います。
- ・女性であってもD o c t o rたるもの、責任ある仕事、どのような立場に居ようと、全うに、なしとげていかねばならない。それにより自信もつき、勉学もする。そして患者とは好循環のサイクル性を招く。しかし女性であるため、自分の将来にもおこたらず眼をむけたい。つまり平凡であっても結婚、子育て、子供の成長を人並みに喜び、子供も自然とD o c t o rの道を歩むであろう（現に私共は3人の男子に恵まれ、3人ともD o c t o r。まだ自分の仕事に燃えていて、父母の（私共の）後を継ぐのは早尚のようで少し淋しい。もう少し私共は老体むちうち、仕事にはげむこととする。後輩の女性医師の参考になれば幸いである。
- ・女医は医業では全く男女区別なく出来る仕事であるが、妊娠出産はどうしても25～35才の10年間にすませるしかない。その際の子育ても夜間の仕事など大変影響をうける。永久的に女としての仕事と職業とをどう両立させるか問題を抱えている。どう解決したらいいのだろう。

【開設者以外／80歳以上】

- ・女性医師が孤立しない様な絆が求められると思います。
- ・当初女性医師は少なく、しかも男子とやることに差別はなかった。そして私たちも女性だからと言われないう夜の往診にも特に頑張っていたものである。併現在ではそれ程頑張らなくとも良いのかも・・・？と思うこの頃である。

29. 現在、当直していますか？(SA)

現在の当直状況をみると、「している」が20.6%、「していない」が77.5%であり、約8割の人が当直をしていないようである。



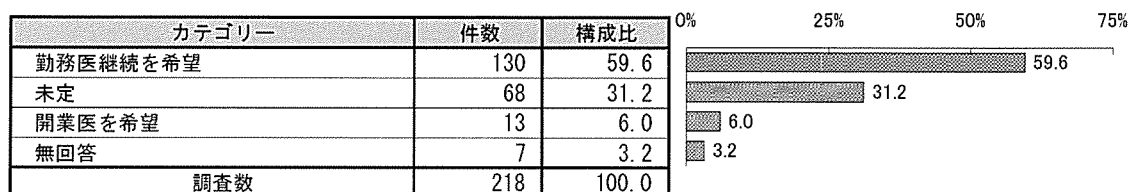
※当直有無×年代別・実労働時間別

当直状況を年代別にみると、「している」は比較的若い世代が高く、30歳代が27.9%、40歳代が19.8%、50歳代が23.7%であるのに対し、60歳代は4.5%、70歳代は0.0%、80歳以上は14.3%と低めである。
実労働時間別では、週平均40時間以上の人は「している」が3割を超えており、『40時間以上～60時間未満』が30.8%、『60時間以上～80時間未満』が76.9%、『80時間以上』が50.2%となっている。

		調査数	している	していない	無回答
上段：実数 下段：横%					
全体		218 100.0	45 20.6	169 77.5	4 1.8
年代	20歳代	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
	30歳代	43 100.0	12 27.9	31 72.1	0 0.0
	40歳代	81 100.0	16 19.8	64 79.0	1 1.2
	50歳代	59 100.0	14 23.7	45 76.3	0 0.0
	60歳代	22 100.0	1 4.5	21 95.5	0 0.0
	70歳代	4 100.0	0 0.0	3 75.0	1 25.0
	80歳以上	7 100.0	1 14.3	4 57.1	2 28.6
	無回答	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
実労働時間	10時間未満	18 100.0	3 16.7	14 77.8	1 5.6
	10時間以上～20時間未満	32 100.0	3 9.4	28 87.5	1 3.1
	20時間以上～30時間未満	31 100.0	0 0.0	31 100.0	0 0.0
	30時間以上～40時間未満	40 100.0	2 5.0	38 95.0	0 0.0
	40時間以上～60時間未満	78 100.0	24 30.8	53 67.9	1 1.3
	60時間以上～80時間未満	13 100.0	10 76.9	3 23.1	0 0.0
	80時間以上	4 100.0	2 50.0	2 50.0	0 0.0
	無回答	2 100.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0

30. 将来についてお答え下さい。(SA)

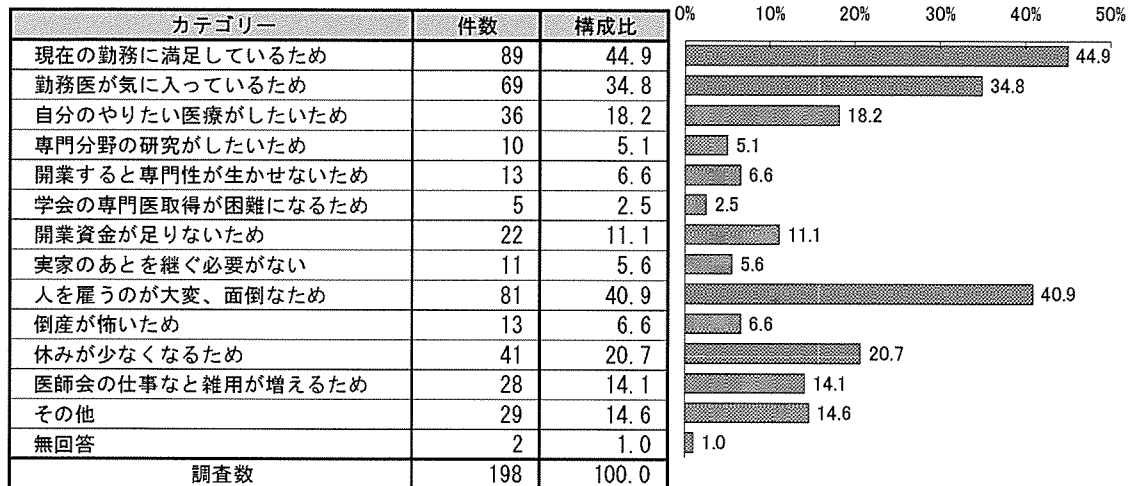
将来については「勤務医継続を希望」が59.6%と約6割を占め、「未定」が31.2%、そして「開業医を希望」は6.0%と少数となっている。



31. (質問30で「勤務医継続を希望」「未定」と答えた先生)

(1) 開業の予定がないのは、なぜですか？(MA)

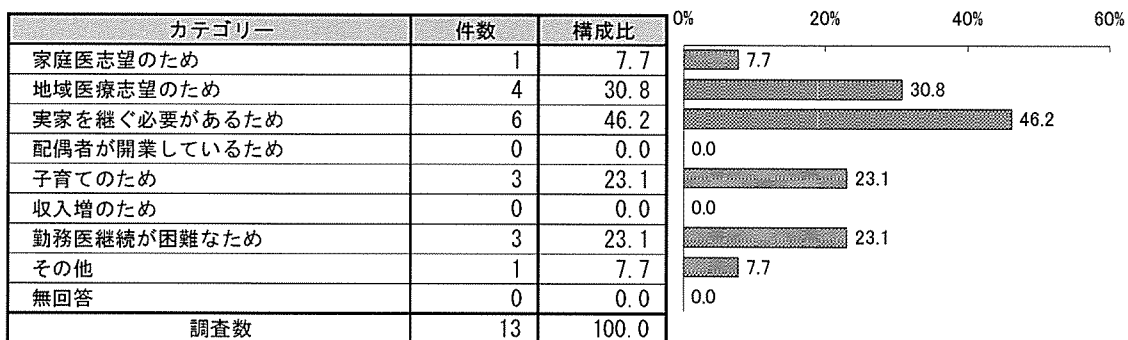
開業の予定がない人の理由としては、「現在の勤務に満足しているため」(44.9%)と「人を雇うのが大変、面倒なため」(40.9%)が4割台と高く、「勤務医が気に入っているため」が34.8%で続く。尚、上位3項目以外は3割を下回っており、中でも「学会の専門医取得が困難になるため」は2.5%と低い。



32. (質問30で「開業医を希望」と答えた先生)

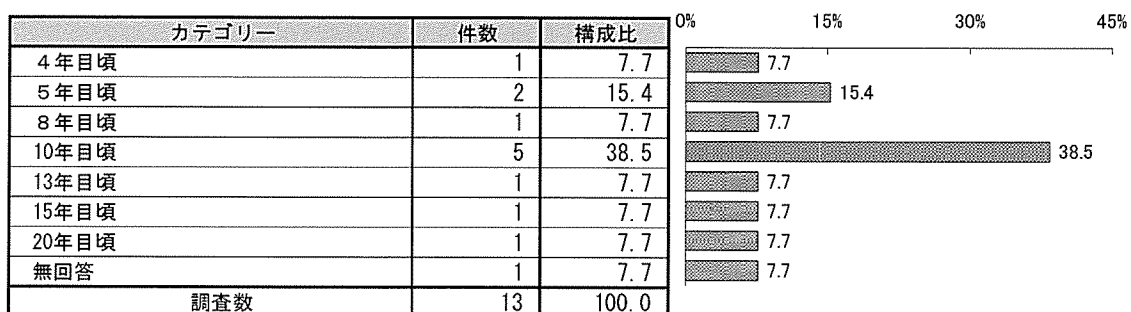
(1) 開業の理由はなんですか？(MA)

開業希望者の理由としては、「実家を継ぐ必要があるため」が46.2%、「地域医療志望のため」が30.8%で続き、「配偶者が開業しているため」と「収入増のため」という人は皆無であった。



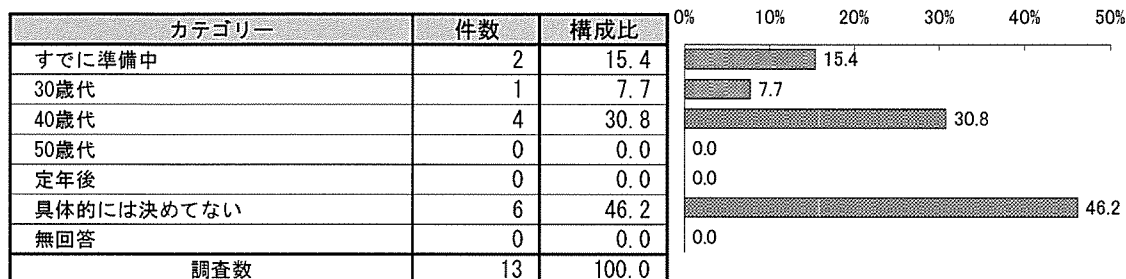
(2) 開業を考え始めたのはいつごろですか？(SA)

開業希望者が開業を考え始めたのは「10年目頃」が38.5%であり、「5年目頃」が15.4%などとなっている。



(3) 開業予定の時期はいつごろですか？(SA)

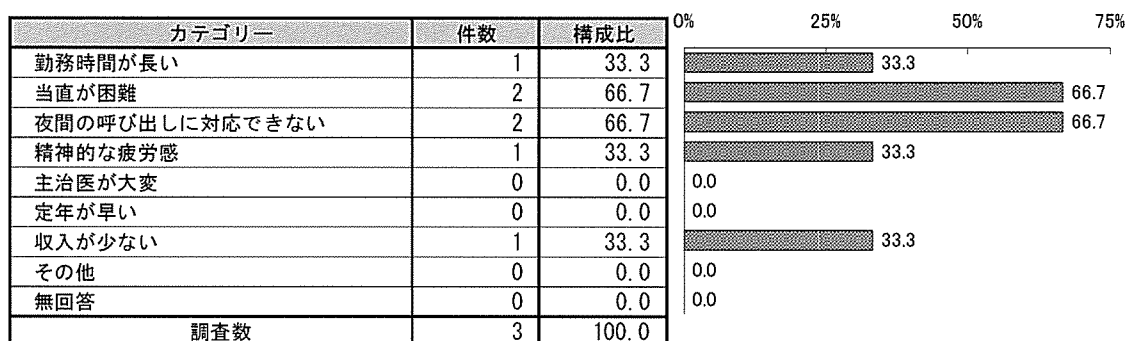
開業予定の時期としては、「40歳代」が30.8%、「すでに準備中」が15.4%などとなっているが、「具体的には決めてない」が46.2%と最も高い。



(4) (質問(1)で「勤務医継続が困難」と答えた方)

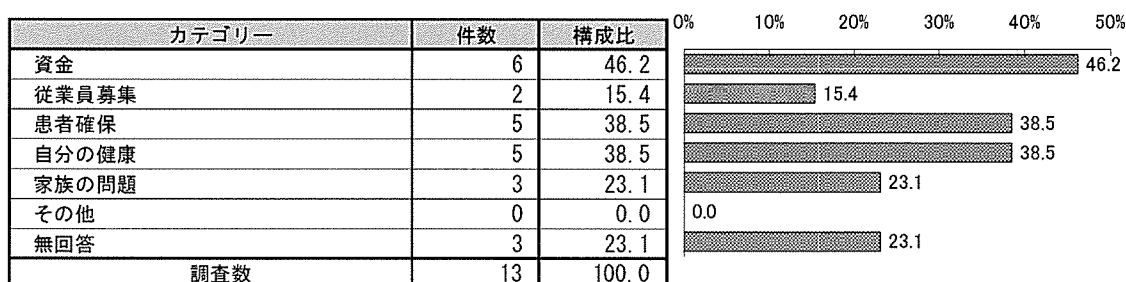
勤務医を続ける上で障害になったことは何でしょうか？(MA)

開業理由で『勤務医継続が困難』という人は、「当直が困難」「夜間の呼び出しに対応できない」(各66.7%)ことが勤務医継続の最大障害になっている。



(5) 開業にあたり最も心配していることは何ですか？(MA)

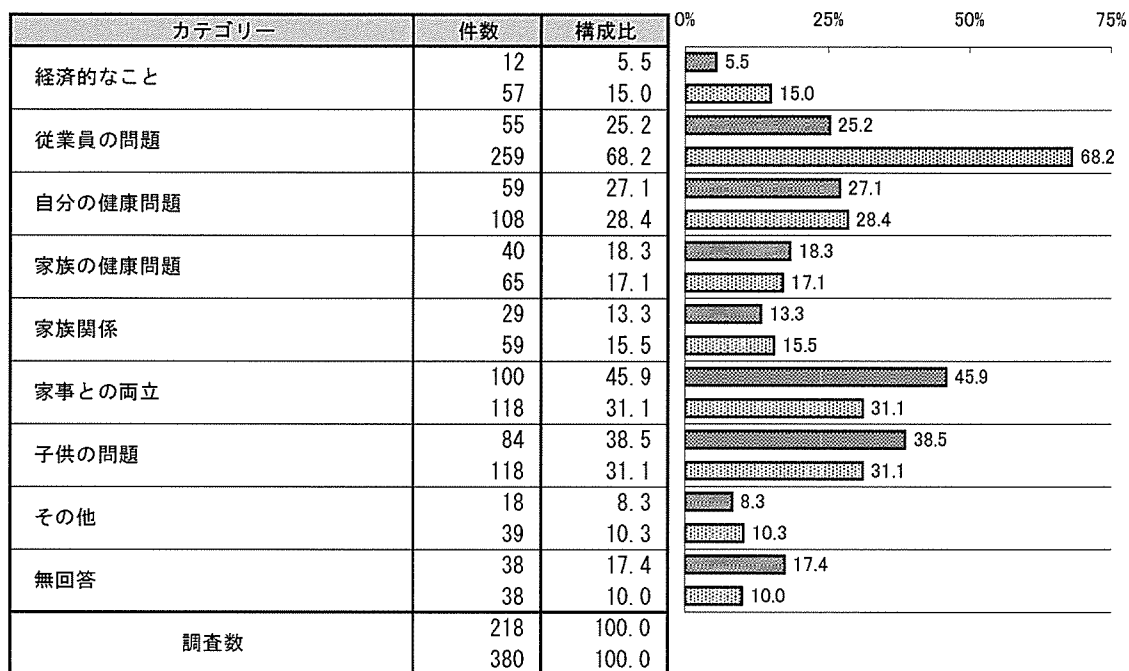
開業にあたり最も心配していることは「資金」が46.2%で最も高く、続いて「患者確保」と「自分の健康」の38.5%であり、「従業員募集」は15.4%と低めである。



33. 勤務してから困ったこと、悩んだことはありますか？(MA)

勤務医として困ったこと・悩んだことは「家事との両立」が45.9%と高く、「子供の問題」が38.5%、「自分の健康問題」が27.1%、「従業員の問題」が25.2%などとなっている。

開業医の困ったこと・悩んだことと比較すると、「従業員の問題」は43ポイント低い、「家事との両立」が約15ポイント、「子供の問題」が7ポイント強高い。



33. 勤務してから困ったこと、悩んだこと／具体的に

【常勤医師／30歳代】

- ・ 子供が病気の時の預け先がない。勤務先の変更に伴い収入が落ちたこと。
- ・ 主人の転勤があった場合どうしようか悩む。（ついて行くか、単身赴任してもらうか）
- ・ 2人目の子供が生まれ、家事と仕事のバランスに悩みました。短時間でも働くことができると、もっと働きたいという欲もです。
- ・ 仕事が終わってからも家事に追われて、子供とゆっくり過ごす時間がとれない。まだ子供が小さいので罪悪感を感じる。
- ・ 過労うつで2回休業しています。2回ともキッカケは上司の病欠（手術）や人員削減による（医局人事）当直回数、オペ件数、当直の著明な増加で、まず家族関係がうまくいかなくなり、いつもイライラし不眠になりといった感じで病院に行けなくなったという経緯です。
- ・ 健診センター勤務だが、常勤が1人で医局も遠く他科のドクターとの交流が持ちにくい。遠方へ通勤のため朝早く、夕方遅めなので家事が十分できない時がある。
- ・ 家族との時間を長くとするのが難。全くHP気にせず1日すごせる日が今の勤務では不可能。
- ・ 子供と遊ぶ時間が減る。
- ・ 部長との人間関係が良くない。日常の勤務と当直で、自宅にいる時疲れてしまっている。
- ・ 仕事に対する不安。（訴訟など）
- ・ 相談できる人がいない。
- ・ 両親の協力がなければ成り立たないが、両親にも介護があり、忙しくて協力を得られないことがある。
- ・ 仕事のストレス（上司とうまくいかない） e t c で体調を崩し入院したことがある。
- ・ 24時間保育所がなく病児保育もない。

【常勤医師／40歳代】

- ・ 子供が出来なくて不妊治療を行った。
- ・ 自分の果たしている役割の重要性を管理職に理解してもらえない。女性としての役割も果たしながらという大変さ。
- ・ 研修会等の託児の問題、家事。
- ・ 子供の突発的な病気の時の欠勤に対する代務の手配など。
- ・ 子供の急病で予定通り業務が行えないことが続いた時。
- ・ 親が高齢になるにつれて、家事負担が増えるが早く帰宅できない。子供の進学などからみPMに仕事をぬけて学校へ行かなければならないことがある。
- ・ 夫が家事に協力せず、仕事を辞めさせたがったこと。
- ・ 休みが少なく、子供の学校行事などになかなか行けてやれない。
- ・ 子供の病気の時に、急に休めないため、通院、検査の必要な時、平日につれていけない。幸い二人とも大きなけが、病気がなくすごしているが夫が仕事を休むことが多い。
- ・ 子供が熱を出した時に、休診にできなかった。
- ・ 思うように休みが取れず、第三者の助けが必要。家事をしていると自分の時間はほぼなし。帰りが遅くなると、子供だけで家に待たせるのは不安。
- ・ 義母が癌で死亡した。実父が脳梗塞で身障者になった。実家に億単位の借金があることが分かった。
- ・ メニエール病と原因不明の手関節炎を発症したが休みがとれなかった。
- ・ 子供が病気でも休めないこと。急なトラブルでお迎えの時刻が守れないこと。
- ・ 勤務地が実家から離れて遠いこと（同居できない）。24時間拘束されていること。開業医Drが紹介、重症化してから依頼されることがよくある。（紹介する時期が遅い）

【常勤医師／50歳代】

- ・ 子供が病気をした時のあずけ先、子供の習い事の送り迎えなど。
- ・ 医師になった頃は女医が少なく偏見も多くあり男性医師の倍以上の努力が必要で孤独であった。40歳台に「がん」になり数年治療をし苦痛であった。
- ・ ①子供が急な発熱で学校に迎えが必要になった場合②業務が長くなって子供の迎えや家事が負担になった場合③家族に仕事の重要性を理解してもらうための努力①②③→このような時に悩みます。
- ・ 家事はほとんど週末しかできず、子供と一緒に過ごす時間も少なかったことが今も残念です。
- ・ 仕事で拘束される時間をいかに切り捨て効率よく働くか悩んだ時期がありました。
- ・ 家事、育児は不完全。他人まかせ。放任していた。
- ・ 同じ科の同僚や部下。他科Drとの間でどちらがその患者を担当するかなど。
- ・ 非常に多忙な時期があり、そのため体調をこわし（身体疾患）入院した。
- ・ 離婚のため今までより以上に働かざるを得なくなり疲労した。
- ・ 産科は当直が多く、年齢と共に自分の体力も落ち、仕事が続けられなくなった。子供、親が病気の時も、当直の仕事の時は帰宅できず、お手伝いさんも時間で帰宅し、夫も仕事で帰宅できず、困った時があった。
- ・ 進学（特に大学）の時期にback upが充分にできない。

- ・長時間勤務が多かった若い時代、保育所の開園時間内に仕事が終わらず二重保育でしのいでいた。子供が病気の時に仕事が休めず大変であった。
- ・入院が必要となり、何度か休職したこと。母親の介護。
- ・子供が小さい時に病気になると保育園を休ませるため、保育する人が必要となり、実家の母に来てもらったが、何回も続くと大変であった。
- ・常勤医の当直は、特に産婦人科では回数が多く、交代勤務でなければ若い方に続けて頂けない時代が来ると思います。出産、育児以外の環境設備は、男女を問わず必要ではないでしょうか？
- ・子供がひきこもりで家にいます。母子関係が構築されていなかったかもしれない。
- ・夜間保育が週2日しかなかったこと。週2日、朝7時からカンファがはじまること。
- ・通勤時間も3時間/日かかり、時間の余裕がなかった。
- ・学校の行事などに参加できないことが多く、子供に寂しい思いをさせた。
- ・家事が十分できず、家族に迷惑かけている。
- ・時間がないこと。

【常勤医師／60歳代】

- ・小児科、内科の経験はあったが事情によりコンタクトが主という眼科に転科し眼科医としての専門性がなかったことによる不安。
- ・親の高齢化に伴う介護の問題。
- ・骨折で入院し、仕事を休んでしまい、申し訳ないと思った。
- ・子供の発熱など急な病気の時に困った。当直、重症の患者のいる時に、保育園の迎えのかわりがいなかったり、食事がおろそかになったりしていました。
- ・部下が全員男性。マンパワー不足。
- ・子供が精神的に不安定だった時期がある。
- ・子育てを手伝ってくれた母の病気。
- ・子供との接触時間が少なかったことを今思う。子育て中は無我夢中でできるだけのことをやっていたと思っていた。

【常勤医師／80歳以上】

- ・もういい年だし、通勤が難儀、又今年は暑いし、時々ふらつとなったりするから。

【非常勤医師／30歳代】

- ・家事、育児は自分が主に行う必要があり、それが時間のほとんどを占めるようになると、仕事のモチベーションが下がり、中途半端に仕事をしているように感じて辞めるべきではないかと考えてしまうこと。
- ・夫の父親の病院で勤務のため、子供の面倒や勤務時間など、かなり融通がきくので困ったことはない。
- ・自分の経験不足や金銭的な面でも、体調不良が数年続いても働かざるを得なかったこと。職場の医師の余裕なさで（多忙すぎて）多くの医師が自分中心になりがちだったこと。（自分も含め）
- ・子供が平日や学校がお休みの時など、仕事の融通がきかない時や突発で子供の熱が出たときなど。
- ・子供が病気になった時に迷惑かけてしまう。
- ・子供が食物アレルギーのため、幼稚園、小学校でお弁当を持たせる必要がある。
- ・子供の急な事故病気の場合も上司にいつらく、休みにくい。（休めない。）毎日子供の健康（病気にならないか）の事が心配で過保護になる。
- ・男性上司との相性、気を使うこと。
- ・子供達がまだ小さいうちはなるべくそばに居てあげたいと思う反面、仕事もしないといっていけなくなると気持ちが焦り、仕事も育児も中途半端になってしまう。仕事と家事、・育児の両立は難しいとよく感じます。
- ・家族のことで精一杯。
- ・子供の突然の都合（カゼ、発熱）でも外来を休めない。（バックアップ体制なし）
- ・主人が単身赴任のためすべて一人でしなければならない。子供の病気時は外来を急に休まざるを得ない。

【非常勤医師／40歳代】

- ・大学病院からのバイト医が働かないとか、患者にきついなどの理由で仕事量が2－3倍にされる。出来ない人と同じ条件のバイト料で、仕事量は2－3倍なのが、いつも不満。言っても改善されず。
- ・幼稚園ではママが大切なため、半日で帰る日は大変（入園したばかり）その子供をボケた義父母（同居）が面倒みれなくなってきた。・・・耳が遠い、子供の考えがわからない、子供はまだママベッタリ。「ママ仕事いっちゃダメ」といわれた時。
- ・勤務の延長や急な呼び出しで、食事が作れなかったり、掃除が十分できない。
- ・病気の時誰が看るかというと困る。たいてい祖父（自分の父）かお手伝いさん。
- ・子供の入院。介護。
- ・子供のそばにいてあげられず、充分満足のゆく子育てができなかったように思う。

勤務医の会員に対するアンケート

- ・ 子供を産んでから体調が悪く、1か月に1週間程寝こんでいる生活が続きました。子供も熱が出ると家に居るので、大人が必要です。勤務日に熱を出されると困りました。又、二人目の子が不登校で学校に行けなかったり、学校、幼稚園の行事に参加が難しい。又、役員（PTA、子供会等）も仕事も非常勤（外来）なので、勤務日（外来）は、ずらせないため、困ります。
- ・ 自分の両親と離れているので、子供が体調をこわした時、仕事を休めなくて自分の代理もすぐにはみつからず主人に休んでもらうことになり主人とけんかがたえないし、また自分の体調が悪くても耐えるしかない。保育園は就業が決まっていなければ受付さえしてもらえないので入園にこぎつけるまで大変だった。
- ・ 突然体調をくずしたり、休みを取りたい時にかわりがいない。多少体調が悪くてもそのまま出勤している。
- ・ 育児を手伝ってもらったため夫の親と同居したがうまくいかなかった。
- ・ 自分が病気をした際、全てがうまく進まなかった。（仕事・家庭・子育て）
- ・ 同居中の夫の親が入院したので、家事を頼りきっていたため困った。子供が急に入院したとき、仕事を休めない日もあった。
- ・ 小学校のPTA役員問題－医師、看護師（≒働く母親）の世界の常識と小学生保護者社会の常識には著しい差がある。医師社会の常識（仕事があってできないなど）が非常識なのだと思う。非就労の母社会の常識が正しいとは限りませんがヒトとして子育てをしていく上で社会活動にも参加できる余裕が必要だと思う。
- ・ 子供の病気の際の勤務が代わりが見つからず、いつも綱渡りで大変だった。
- ・ 突然の発熱や長期化する発熱で、看病をしたが、出勤せねばならない時のあずけ先に困った。（重症の際は夫の親でも安心できなかった）
- ・ 子どもの一人に障がいがあること。子どもの教育の為に時間がとりにくいこと。
- ・ 常勤では時間や体力的な問題から、6、7をクリアできない。非常勤では仕事内容が不満に感じられる。（手術が出来ない）
- ・ 夫の協力がほとんど得られず苦勞している。

【非常勤医師／50歳代】

- ・ 子供が小さい時は、夫の両親にときどき手伝ってもらったが、かなり気を使う。夫の家族が仕事を理解してもらえない（何かあるとすぐ帰ってこいとTELがあった）等大変でした・・・
- ・ 夫が家事、育児に非協力的だった。ずっと離婚を考えている。
- ・ 自分の両親と主人の母親3人をほとんど一人で看取っていた時は時間がなく、家の事ができずに、体力的にとっても大変だった。
- ・ 休業保障がない。
- ・ 経営者の医療モラルが納得できないことが多い。

【非常勤医師／60歳代】

- ・ 現在も同様と考えますが、子供の予期せぬ病気、けがなどの場合に、しかも家族、ベビーシッターで対応できない場合に、仕事との両立の困難さを感じました。
- ・ 管理職となり、人事面に苦勞したこと。
- ・ 急に子供が病気になった時、主人の親に無理に世話を頼んだ。

【非常勤医師／70歳代】

- ・ 子供が病気の時

34. 勤務医でよかったと思うことをお聞かせください。

【常勤医師／30歳代】

- ・ 経営やスタッフの心配をする必要がなく気楽。
- ・ 休みがとれる。他の医師に相談しやすい。教えてもらえる。
- ・ 患者とのトラブル時の対応など、病院が対応してくれる。経営についてなどあまり考えなくてよい。
- ・ 子供が発熱して休まざるえない時に、他の同僚が follow してくれる。
- ・ 産科医療が縮小する中で、病院にいれば分娩や手術ができて、技術の習得ができる。
- ・ 自分が休んでいる間、他の医師が仕事を分担してくれた。
- ・ うつになった際、休業することが出来たこと。また子供の入院の際に休みをとれた事などがあります。
- ・ 出産での産休や育休などとりやすかった（開業したら大変だと思う）常勤なので経済的に安定する。
- ・ 休業・復帰しやすい。
- ・ 子供と離れる時間ができる。
- ・ 気楽であること。院長先生に相談できること。
- ・ 自分のやりたいことができる。（時間がある）
- ・ 基本的に定時に終るので、保育園にむかえに行って夕食をつくってあげられる。家族サービスできる余裕があること。
自分が体調こわしたとき、代診医をたててくれてサポートしてもらえること。
- ・ 他科の先生に色々学ばせてもらっている。情報が入りやすい。
- ・ 同じ立場の女性医師とお互いにフォローし合える。

【常勤医師／40歳代】

- ・ 通院が比較的自由に出来た。
- ・ 経営、管理面の雑用がない。
- ・ 自分が子供のことで休まなければならない時も医院は医師手配をスムーズにしてくれる。
- ・ 問題事例が発生した時に、一人で抱えこまずに組織として対応することができる。
- ・ 急な欠勤にも何とか対応してもらえるから。
- ・ 子供が学校で体調を崩した時でも、直ぐに迎えに行く事ができ、大変助かっています。
- ・ 他の医師と交流、勉強ができる。
- ・ 各科、Dr、コ・メディカル、事務職と幅広い人々と仕事ができること。研修医とつき合えること。
- ・ 他の分野の専門医と交流ができる。
- ・ 他のDrが穴うめしてくれること。
- ・ 医師が複数いるため情報交換ができ、ひとりよがりの医療になりにくい。
- ・ 自分の休みが欲しい時、代務の医師が来てくれること。
- ・ 経営について考える必要がない事。
- ・ 勤務時間外に仕事のスイッチOFF（メンタルのきりかえ）ができる。
- ・ 有休を取れる。医師仲間がいる。
- ・ 患者が少なくても定額の収入があること。
- ・ 仕事と家庭を両立させていただいてます。
- ・ ある程度勤務時間の調整ができる。
- ・ 開業医ではできないレベルの医療が行える。他のDrとの交流がある。
- ・ 経営的なわずらわしさを考えなくてよいところ。
- ・ 休みの振り替えができた事。（学会出張のため）
- ・ 良くも悪くも自分の代わりになる医師がいて助けてもらえること。
- ・ 比較的時間の都合がつく。（休みがとりやすい）
- ・ 時間をかけて治療することができる。色々な検査がそろっており対応できること。
- ・ 育児で十分勉強ができなくても、周囲からの情報を得やすかった。新薬や新しい手技もすぐ導入される。チーム医療ができる。
- ・ 旅行等の時、休みが取れること。

【常勤医師／50歳代】

- ・ 常勤医ではあるが、療養型病院勤務が多く、わりに融通がきいたので30年間勤務が続けることができたのがよかった。
- ・ 公立病院勤務時は役職のある地位にもなりそれなりの社会的地位も得られ自分に自信をもつことができた。
- ・ 勤務先で労働の保障をいただいている事、さらにコメディカルのスタッフとのチームワークで仕事に取りくめる事に充実感がある事。
- ・ 医療のみに専念して仕事を続けてこられたことは満足しています。
- ・ 経営や人を雇うなどの問題にわずらわされることがない。
- ・ 休みが取りやすい（多数いると、2人から8人）収入が安定している。
- ・ 経営についての責任が軽い。受付などの雇用者がやめてしまった等の心配がない。

勤務医の会員に対するアンケート

- ・人を雇用し、その人への責任を果たさなくて済むこと。
- ・専門分野の仕事に集中して働くことができた。チーム医療で自分以外にもカバーするメンバーがいて、onとoffが切りかえられた。
- ・自分の希望した専門の医療を続けることができた。
- ・開業も考えましたがやはり勤務医の方が気が楽でしょう。仕事でわからない事があれば他の医師と相談できる。休みを取ろうと思えば取りやすい。借金せずに済むなど。
- ・病院を出れば自分の時間がある。相談する先生方が病院に居る。
- ・新しい知識や技術にふれる機会が多く、刺激的である。
- ・人を雇う気苦労がない。
- ・パラメディカル雇用にはわずらわせない。最終的には自分の意思で勤務を中止できる。止めたり、やすんだり。
- ・仕事に専念できる。経営その他を考えなくてよい。
- ・経営費の苦労が無い。
- ・他科Drとの連携がとりやすい。
- ・医療業務に専念できる。
- ・人の採用、事務、会計など医療以外のわずらわしさが無い。重症中レアな症例を経験できる。
- ・スケジュールをある程度自分で決定でき、休みをとることができている。
- ・子供が小さい時を乗りこえ、現在も働けること。
- ・経営・人事の悩みが無い。複数の医師が勤務している為、休みが取りやすい。（現在の勤務先）
- ・よかったかどうか分かりませんが・・・いろいろなことを経験しました。学会にもいけます。
- ・金銭的なことはあまり考えなくてもよい。
- ・ひとり医長であったが病院長等がたいへん協力的であった。診療以外の雑事（人事等）がないのが精神的に楽。
- ・新しい知識が周りの若い先生から入ってくる。
- ・院内の他Drと相談できる。

【常勤医師／60歳代】

- ・先輩、同僚と色々話しあうことができる。
- ・当直がない職場（転職）であるため、子育てが可能になった。
- ・入院で休んでも、他の先生でうめあわせをしてもらえた事。
- ・多職種の人達との意見交換や切磋琢磨することで、新しい医療のことを知ることが出来た。
- ・内科であるため、同じ科に複数の医師がいて、心強い（相談したりカバーしあったり）若い頃に急性期疾患をしっかりみることができて力がついたと思う。その時のライフスタイルにあわせて勤務先をかえられたのもよかったと思う。
- ・off timeをとれる。
自分のやりたい仕事ができる。
- ・大学勤務→多くの人との交流→研究の展開→疾患の多様性→そして専門性。
- ・患者さんのことだけを考えて仕事ができる。
- ・先輩・同僚に相談できる。
- ・多くの仲間と働くことができた。常に新しい情報が入る。

【常勤医師／80歳以上】

- ・頼まれて行っているのですが、開業医よりは気分は楽だと思う。通勤がきついけど。

【非常勤医師／30歳代】

- ・今はパートです。出産時の休業など院長に理解して頂き続けることができています。出産、家事、育児の経験が仕事にプラスに生かされています。（患者さんの感覚に近づくことができる）
- ・自分が勤務日でない時や休みたい時に代わりの医師がいてくれてフォローしてくれること。医師やその他職種のつながりができる。何かあった時や治療、薬などで困った時にすぐに相談できる。
- ・色々な病院、クリニックで勉強でき、医療面だけでなくスタッフ教育など別のノウハウも吸収できること。他医局の医師とも仕事でき勉強になるし、人間関係も広がる。
- ・長期休暇がとれる。
- ・代務が頼みやすい。
- ・用事のあるとき事前に勤務交代ができる。
- ・上司に色々教えてもらえ、スキルアップできる。勤務先が変わるたび、上司、仲間がふえ、意見交換もでき刺激的。
- ・収入が保証されていること。
- ・子供が病気でどうしても仕事が出来ず行けないときには休むことができ、融通がきき助かります。
- ・休みが比較的自由。オンオフの切りかえがしやすい。税金等面倒な行政上の手続きが不要。
- ・他の先生に助けていただける。
- ・代診が可能。

【非常勤医師／40歳代】

- ・ 気楽に働ける。
- ・ 自分の体調が悪くなった時に急に休むことができる。子供の都合にあわせて予定がたてられる。
- ・ 子供の行事に理解があり休みや外出がとりやすい。看護師さんなど同じ働く母が多いので子育てなどの話がしやすい。
- ・ 自分の代わりの医師がいること。とりあえず3人の子供を出産、育児しながら細々とでもパートで続けられたこと。
- ・ 勤務時間が限られている点。
- ・ 万が一、休んでも影響が少ないこと。
- ・ 自由な時間がもてたとおもう。
- ・ 一定収入が得られる。
- ・ 経営面の雑事で悩まされることがないので。
- ・ 今はパート的な仕事のみで家事がメインだがそこそこの収入が得られる。
- ・ 子供が学校から帰宅する時には家にいられる勤務なので、子供にさみしい思いをさせることもなく、おけいこ事の送迎や、お友達の家への行き来も普通にやってあげられたこと。朝早くお弁当を作って出勤するのは大変ではあるが、シッターさんが朝の家事をして下さるので、お弁当も冷凍食品など使わずきちんと作ってあげられること。
- ・ 土曜に働かなくて良いので、子供の学校行事やPTA役員等に参加できること。
- ・ 医療の進化を感じやすい。
- ・ 色々な医師と接して相談できる。
- ・ 上記のように急に休みをとりたい場合、複数の医師がいるのでカバーしてもらえること。
- ・ 研修医の指導が出来ること。
- ・ 診療で困った時に、他の専門医（同じ病院）に相談できる。
- ・ 代診が可能のため。
- ・ 勤務を交代してもらえる。（子供の行事や病気、夏休み など）
- ・ 同僚の医師が同じ様な立場であったため、お互いに助け合って仕事ができている。

【非常勤医師／50歳代】

- ・ 人事、経営の大変さがなく、のんびり仕事ができること。
- ・ 経営する能力、資金が無いため開業することは卒業以来考えた事はない。自分の専門性に専念できたことが良かった。
- ・ 経営に対して責任をもたないですよ。
- ・ 就業時間が決まっていること。
- ・ 仕事と家庭を両立させるのに、自分には合っていたと思う。
- ・ 休みがとりやすい。
- ・ free timeがとれる。
- ・ 複数の人に相談出来ること。
- ・ 病気しても保障があり、ありがたかった。

【非常勤医師／60歳代】

- ・ 自分の持てる力を発揮できる環境。
- ・ 開業に向いていないことから、勤務医を継続したことと、さらに専門分野での開業の道が当時なかったこと。勤務医は時間的に開業の先生より余裕があると考えます。
- ・ 経営の問題（経済的）、人事の問題に頭を悩ませる必要がない。
- ・ 年1回の海外旅行に行けること。従業員に関する悩みがないこと。
- ・ 勤務時間を終えると比較的自由時間が作れる。

【非常勤医師／70歳代】

- ・ 勤務時間を調節出来る。
- ・ 卒後一度も”常勤”になったことはなく子育て中は10年余休職し、その後も週3回程度開業医さんのお手伝い（約20年）その後今の仕事をしています。フルタイムにつとめていたら大変だったと思いますが自分中心の都合のいい勤務形態でしたので家族にもそれほど迷惑をかけず楽しくやって来られました。今の仕事も元気な内はいつまでも続けられそうで満足しています。”本当の勤務医”とはいえないでしょうがこういう形態も女性医として悪くはないと思います。

35. その他、ご意見がありましたらお書きください。

【常勤医師／30歳代】

- ・開業医にも相応の夜間休日救急の負担をして欲しい。
- ・自分の理想の仕事を追求している夫をみると仕事の内容まで選ぶことができない私の立場を理解してくれていないと感じてしまいます。出産して得るものも沢山ありましたが、気持ちや体が疲れてくると、私だけが家のことを背負わされていると思ってしまいがちです。
- ・ワークシェアリングとか、女性が常勤医のまま勤務時間を短くして、女性同士が協力して勤務医を続けられる体制ができたらいと思います。
- ・家庭を犠牲にして当直を頑張っているのに、日勤帯の労働に比して、当直帯の貢献分の評価があまりにも賃金的にも上司にも低く、割りにあわないという不満がいつもあり、手伝ってくれる親をもたない子持ち女医の先生の優遇との差を一生背負いつづけていくのかと思うと阿保らしくて、公立や基幹病院での勤務を続ける気が全くおこらなくなってきました。開業医さんでの勤務医への転身を現在考えているところです。
- ・以前からの勤務スタイル：日勤帯業務→当直→引き続き日勤帯業務はこれからの総合病院の人材確保の壁になると思います。若い世代は生活をかなり考える方向になりつつあるので、当直のある病院はシフト制など「疲れがたまらない」業務スタイルでないと続かなくなってくるのでは。子供のいる女性医師が昼間勤務のみ、などで増えてくると、男性医師にもあてはまってくるのでは、と思います。
- ・開業医に勤務させてもらっている。自然なお産、夜昼ないが、子育ての時間と連動するやりがいあり。
- ・特に大学病院は産休育休に対する考え方が浅はかでとても肩身の狭い思いでした。
- ・女医の離職率をもう少し社会問題にすべきだと思います。人権や女性問題を無視してでも、今のこの人手不足の苦しさをどうにかしなければならず、医学部の定員に男女の人数制限を設けるというのもやむを得ない気がします。もとはといえば簡単に離職する女医が悪いのですが…。もっと学生時代から医者1人の育成にかかるコストと労力を教えこみ、高い目的意識をもって、医療にたずさわるより”やめない女医”になるよう教育に力を入れるといいと思います。

【常勤医師／40歳代】

- ・女医の会の活動はどうしても結婚、子育ての女医さんサポートに限向しがちである。独身で仕事を中心に生きる女医にとっては、むしろ格差を生む結果(同性内差別)となっていることに、活動側が気がついていない場合もある。結婚、子育ての女医さんを優遇するあまりに人生のすべてを仕事にかけている独身女医がやる気をなくすようなことにならないようなサポートが必要かと思います。
- ・いろいろな研修会の託児を充実してほしい、小学生も可としてほしいです。
- ・中学、高校、大学と私以外は優秀な女性が多かったのに、今の日本はいかされてないと思います。
- ・女性(育休産休予定)の部下をもつ男性医師のサポートも宜しくをお願いします。男性に限ったことではないかもしれませんが、自分自身は上司の理解に恵まれ、大変支援されたと感じていますが、フォローする周りの人々にはやはり多くの負担をお願いすることになりました。少し時間の余裕ができた今はその頃の“恩返し”の気持ちで仕事を続けています。アンケート結果が女子医学生、研修医の励ましになることを願います。
- ・現在週に1回近くの市民病院の外来を手伝いに非常勤医師としても働いています(通常は私立の病院の常勤医)市民病院の常勤医のたいへんさは身をもって知っておりますので、少しでも役に立てればと思い、また最新の医療情報を得ることも重要と考えています。開業医の先生もそうした形で市民病院に入って勉強する、あるいは若い先生たちに技術を教えるといったシステムがあるといいのではと思います。災害時にも戦場となる市民病院にかけつけて一緒に医療を行うこともスムーズにできるのではと思います。
- ・世間では病院保育を行っている病院があるが、熱がある時こそいつもの保育園に居た方が(いつも見てくれている保育士がいるので)子供も安心して預けられると思う。保育園で病院保育ができるようになればいいなあ。園医もやっているんで、保育園に往診とか協力できることはしたいのですが・・・
- ・出産後に総合病院に復帰できることは難しく、大学等に非常勤登録(パート等)がしっかりあるとよかったと思いました。
- ・他の職種も同じ事ですが、責任のある仕事には拘束される時間も多く休みでも仕事という感覚です。もう少し自分の時間の作れる勤務にかえていきたいです。勤務先をかえていかないと実現しない事です・・・医局を離れて就職を決めた時は研修へ行く機会、休みの日数も多く説明をうけてましたが、それは、上の考えで→理想論 実際の現場ではゆるされない事です。交渉は難しいです。

【常勤医師／50歳代】

- ・子供が多く急性期病院で働くことは困難(全く考えられなかった)で、療養型病院で勤務を継続するのがやっとの状況であったが、私の両親(車で4～50分のところに住んでいました)に随分手助け、協力をもらえたのが恵まれたていきました。
- ・現在の30歳台40歳台前半の女医と私のような60歳近いものとは医師として育ってきた環境も異なり年代を分けて女性医師の考えもきいた方がよいと思う。私の頃は今のよう女性医師への配慮というものがない時代で男性と同等に仕事をするのに結婚せず我慢して仕事を選ぶという人も多かったです。
- ・研究会や勉強会を日曜日に開催して欲しい。

- ・常勤勤務医として仕事を続けることが、そろそろ大変になってきたので2～3年のうちに非常勤職（もしくは産業医）へ転職することを考えています。開業は始めると地域住民の方への責任もあり容易にやめることはできないので今のところ予定はありません。
- ・女性医師の主な問題は子育てと考えられております。私もそう考えましたが、この年になると、目前に迫ってくる父母の介護について、これも女性が主体になるので続けられるかどうか不安です。
- ・出産・育児の際には、当時制度がなかったため育休をとることはできず、大学病院勤務を辞めました。働くためには家族（特に自分の親）のサポートが自分にとっては不可欠でしたので、多くの女性医師も女系的な育児を見直しされると良いと考えます。
- ・初期研修、学会の専門医制度の中での研修プログラム等、制度として充実する一方、若い医師がどこでそれを中断して妊婦、出産するかは、むづかしい問題と思う。一定落ちついてからと考えているとなかなかその時期がこないし、一旦退いてしまうと復帰のタイミングがむづかしい。院内保育の充実、研修期間を中断した場合のプログラム等、女性医師が堂々と育児できる環境が必要でしょう。そのためには男性医師及び子供をもたない女性医師の協力が不可欠だと思います。
- ・勤務医にとって当直はさけて通れないものであるが、医師数が減ると残された医師の当直回数もアップし、本来の業務ができないほど疲れてしまう。医師会等で当直Drの確保等行ってもらいたいと思います。
- ・担当先生方、お疲れ様です。結果を楽しみにしております。

【常勤医師／60歳代】

- ・45才頃に当直明けの夕方、身体の動きが全くおかしく、全身が重くて活動出来ない状態に気づく。年齢により今まで何ともなく就労可能だったものが出来ない位のストレスが当直にはあると気づきました。当直は若い方をお願いします。
- ・家族の協力に感謝しています。
- ・医師という仕事を選んで良かった。家族を持てて良かった。いつも人を活かし自分も活かす。
- ・自分自身で判断して、仕事の内容を選ぶことが大切と思う。失敗しても、自分の判断で選んだ道であることを受け止めるべきと今、思っている。

【常勤医師／80歳以上】

- ・健康に注意して、出来るだけ続けられたらと思っています。

【非常勤医師／30歳代】

- ・出産し、できるだけ自分で育児してあげたいと考えている女性医師は当直ができない。（やはり子供が風邪、病気の時は一緒にいてあげたい）常勤で働くとはやはり当直できる医師にばかり負担がいく。そこを納得させる程度の給料格差が必要だと思う。
- ・子供が突発で微熱、病気e t cのときにあずける施設がもっと欲しい。
- ・育児で休業しており復職したくて女医バンクに登録したがなかなか眼科で条件のあう（短時間o r市内e t c）職場がみつからなかった。女医の働きやすい環境(選択)が増えるといいと思う。

【非常勤医師／40歳代】

- ・子供が小学生ぐらいになり理解でき、親もボケてなくて自分の時間がもてるようになったら仕事の時間をふやしたいと思う。義父母はボケはじめており、実父も？の今は将来の開業は考えられない。開業して経営もうまくいかなくて、ボケの介護もとなったら、自分が一人っ子ため、ダンナはふつうの人のため、助けてもらうことができない（夫は朝5:30～夜9に帰り、子供と遊べない）高齢出産を喜んでいたのも束の間、義父母と同居したら義母がボケはじめており、嫁に対してのぐちが多く、夫の前ではまだらボケでボケが出ないため「人の親をバカにするな」とケンカ。夫はボケを知らないため、義母の言う事を信じており、幼稚園に入った子供と自分が入った小学校(幼稚園はなかったから)と同じと勘違いして、孫の文句を言うので困る。(1人で遊ばばいい。1人で遊ばせない嫁が悪い) 義父は耳が遠く孫のかん高い声は聞こえない&彼の考えが頭が廻らないので、理解できない。義母・義父とは距離をとってつきあい、一時多動となり、どもりもあり、大人の対応が悪いとおちつきのない子供になるような気がする。
- ・現職場では子育て中という理由で、勤務の短縮、患者さんの割り当てを少人数にする。また外来は健診専門にする等工夫して頂き、3人の子供を育てながら勤務継続中です。職場の理解や工夫、急な休みのサポートが必要です。病児医療の充実も必要と思います。
- ・私はパートながらも先輩医師達の指導に恵まれ、専門医も学位を取ることができました。そのことでは本当に先輩医師の先生方に感謝しています。結婚、出産してフルタイムでやっている女性医師の大半はおばあちゃんに支えられているようです。私の母も医師のため、私は夫、ベビーシッター、お手伝いさんに支えられてなんとかのりきっています。そのようなサポートを受ける情報をもっと若い方にも十分にあるといいかなと思います。サポートしてもらっても、やっぱり子供が小さいうちは「ママでないとダメ」という部分も大きく大変です。
幸い私の周囲の医師の方は皆さん理解ある方ばかりでしたが、時には男性よりも女性医師で子供のいない独身の人の方が厳しいこともあります。同じ医師として、忙しいながらも自分は若い人の出産・育児に温かい目を向けて行きたいなと思います。

勤務医の会員に対するアンケート

- ・子育てをしている時（特に幼い子をもっている間）は、夜間の就労は極めて困難であり、継続していくことは不可能に近い。周りでもそれを理由に退職された女性が多い。この状況をサポートしていただける体制を強く望みます。（今後の若い先生方のために）
- ・私の母はフルタイムの常勤医で、私は子供時代、学校から帰ると家にはお手伝いがいるという環境で育ちました。そのため、という訳でもないのですが、今の職場に縁があったこともあり、子供2人を育てる間ずっと週3～4日、主に午前診療で今に至っております。それでも、シッターさんなど頼る方は必要でしたが、精神的にも大変になることはほとんどなく、又、仕事にも集中できています。子供は幼少期よりむしろ小学校から思春期の方が、干渉することはなくても何となく心の気配を見ていてやる必要があると私は思ったので、女医として恵まれた勤務形態であった故、それが可能で、子供たちも特にトラブルなく育ております。私の勤務先にも女医さんであるお母さんが子供を連れて診察に来て下さいますが、常勤であることと母親であることの両立の大変さに皆さんいつも悩まれています。難しい問題です。
- ・①子育て、介護は女性のみの問題ではない。勤務上の余裕（子供の学校行事に休みをとる。帰宅後に勉強できる時間や気力がある）を男女共もてるようになることが必要だと思います。②過重労働から時短労働へ。若い頃、長時間休みなく働いた。勉強する時間もとれなかった。今、勉強する時間がとれ短時間の仕事でOUTPUTできる。効果的だと思う。学童保育問題をきっかけに短時間勤務をしたが24時間めりはりなく働く昔には戻りたいと思わない。逆に働く意欲のある医師（女医）に長く長時間勤務を続けさせたいなら保育園や小学校などの問題で中断させない工夫が必要だと思う。
- ・家族と相談しながら、毎年毎年状況を考慮しつつ職場の理解も得られ恵まれた環境で就労させていただき感謝しています。しかし遠方の学会（総会）、泊りがけの研究会、長時間の勉強会は徐々に出席しづらくなり現在は殆ど出席できていません。学会発表、論文執筆の現場からも離れていて自分の意欲の欠如ながらも、同世代男性医師の第一線での活躍、医療技量とのギャップが年々大きくなることに常に不安と焦りも感じます。

【非常勤医師／50歳代】

- ・私は現在勤務医ですが、主人は開業しております。私は主人のクリニックの医療には全く携わっていませんが、経理の仕事をしています。2人で医療をやる程、患者さんもきていないし、開業の人事の大変さを痛感しています。やはり勤務医の方が精神的にとっても楽です。
- ・子供を育てながらの仕事は大変です。私の場合、出産と共にそれまでの公的病院をやめざるを得ず、民間の病院へ勤務する事となりました。もっとサポート体制がしっかりしていれば、公的病院で働き続けられたと思います。また小学校の入学後の学童保育の定員があまりにも少ないと思われます。
- ・人間らしい生活ができれば減少しないのでは？
- ・とりあえず目に見えるサポート（家事を手伝ってもらうとか、子供の面倒をみてもらうとか）はだれかにかわってもらうことが出来るが、目に見えない親としての仕事をする時間のキープが大変だと思う。

【非常勤医師／60歳代】

- ・キャリアアップの段階で、セクハラ・アカハラなどが問題となります。今後は勤務医（大学、医学部、大学病院、市立病院）の実態など、上記の側面からの調査もお願いしたいと考えます。
- ・女性に対する問題よりは、男性医師の意識改革の方が必要。

【非常勤医師／70歳代】

- ・分娩育児等は大変であるが、やはり若い人はしっかりと実地経験をつんで欲しい。そのためには、育児を援助してくれる人と場の充実が必要。

【非常勤医師／80歳以上】

- ・1950年から勤務医14年間（1950年～1964年迄）開業医46年間（1964年～2010年迄）眼科医であって幸せでした。【恩師、先輩、後輩、友人、スタッフ、家族、そして患者の皆様によって育てられて今日の私があります。感謝、感謝の日々であります】

※ 記入式の回答のため、一部不明な文字等があります。

アンケート票

愛知県医師会女性会員アンケート

《該当する番号を○印で囲むか、（ ）内に回答をご記入願います》

すべての女性医師会員の方にお尋ねします。

1. 会員の種別をお答えください。

(1) A 会員 (2) B 会員

2. 年齢等をお答えください。

(1) 20 歳代 (2) 30 歳代 (3) 40 歳代 (4) 50 歳代
(5) 60 歳代 (6) 70 歳代 (7) 80 歳以上

卒業後年数_____年、現医療機関の勤続年数_____年

3. 就労形態をお答えください。

(1) 開業医 (① 開設者 ② 開設者以外 (親族等が開設者)) → 質問 4 へお進みください
(2) 勤務医 (① 常勤医師 ② 非常勤医師 (週 _____ 日勤務)) → 質問 4 へお進みください
(3) 非就業 → 質問 5 へお進みください

4. 質問3で「開業医」「勤務医」と答えた方に伺います。実労働時間（週平均）をお答えください。

(1) 10 時間未満 (2) 10 時間以上～20 時間未満
(3) 20 時間以上～30 時間未満 (4) 30 時間以上～40 時間未満
(5) 40 時間以上～60 時間未満 (6) 60 時間以上～80 時間未満
(7) 80 時間以上

5. 主たる診療科をお答えください。(1つのみ)

()

6. 配偶者等パートナーの有無をお答えください。

(1) あり (① 医師 ② 他職種) (2) なし

7. 子供の有無をお答えください。

(1) あり (_____人) → 質問 8 へお進みください
(2) なし → 質問 9 へお進みください

8. 質問7で「あり」と答えた方に伺います。何人かの場合は一番下のお子様の出産時についてお答えください。

(1) いつ出産されましたか？

西暦_____年

(2) 就労形態は？

① 開業医 ② 勤務医（非常勤、院生、アルバイト含む） ③ 非就業 ④ 学生

(3) 産休期間は？

産前_____週間、産後_____週間

(4) 育児休業は？

① とった（ 年 ヶ月） ② とらなかった

(5) 勤務先に育児休業制度は？

① なかった ② あるが利用していない ③ 利用した ④ 利用中

(6) 夫以外に常時育児を手助けしてもらう人はいますか（いましたか）？（複数回答可）

① いる（いた）

A. 自分または夫の親 B. 左記以外の家族 C. ベビーシッター等

D. その他（ ）

② いない（いなかった）

(7) 夫は育児に協力的ですか（でしたか）？

① たいへん協力的 ② 協力的 ③ あまり協力的でない ④ 多忙なため協力不可

(8) 就学前の保育は？

① 保育園 ② 幼稚園 ③ 家族 ④ 自分 ⑤ その他（ ）

(9) 小学校入学後は？

① 学童保育 ② 家族 ③ 自分 ④ その他（ ）

9. 現在、仕事・家事・育児以外の勉強や趣味に費やす時間は？

平均_____時間／週

10. 家事は主に誰が行ないますか？（複数回答可）

(1) 自分 (2) 夫 (3) 親 (4) お手伝いさん (5) その他（ ）

11. 医師会の役員等の経験（過去・現在を含め）はありますか？

(1) ある（① 地区医師会 ② 分科会 ③ 医師会内委員会） (2) ない

12. 学会や講習会などの出席は可能ですか？

(1) 十分出席できている (2) 不十分 (3) ほとんどできない

→ 開業医の方は、質問 13～28（P.4～5）へお進みください

→ 勤務医の方は、質問 29～34（P.6～7）へお進みください

開業医の方にお尋ねします。

13. 開業の形態についてお答えください。

- (1) 病院 (2) 有床診療所 (3) 無床診療所 (4) その他 ()

14. 卒後何年で開業しましたか？

- (1) 5 年未満 (2) 5 ~ 10 年 (3) 11 ~ 15 年 (4) 16 ~ 20 年 (5) 20 年以上

15. 開業して何年になりますか？

- (1) 5 年未満 (2) 5 ～10 年 (3) 11～20 年 (4) 21～30 年 (5) 31～40 年
(6) 41 年以上

16. 自宅と開業地についてお答えください。

- (2) 離れている (① 1 km 圏内 ② 10km 圏内 ③ 10km 以上)

17. 開業の理由についてお答えください。(複数回答可)

- (1) 親族の医院の継承のため (2) 病院勤務が過重労働のため
(3) 家事育児との両立のため (4) 高収入を得るため
(5) やりたい医療のため (6) その他 ()

18. 医業に係る活動時間についてお答えください。

- ・ 標榜診療時間 : _____ 時間／週
- ・ それ以外の活動 : (1) 往診・訪問診療 (2) 講演・講義 (3) 学校医・園医
(4) 産業医 (5) 健診・検診 (6) 予防接種
(7) その他 ()

19. 開業してから出産、病気など、やむをえない事情で休んだことがありますか？

- (1) ある (① 1週間以内 ② 1ヶ月以内 ③ 3ヶ月以内 ④ 3ヶ月以上)
→ 質問 20 へお進みください
- (2) ない → 質問 21 へお進みください

20. 質問 19 であると答えた方は、その間どうしましたか？

- (1) 休診にした (2) 代診を頼んだ (3) その他 ()

21. 経営における事務的なことは、誰が行っていますか？

- (1) 自分 (2) 自分以外の家族 (3) 事務長 (4) その他 ()

22. 開業時の資金についてお答えください。

- (1) 手持ち資金でまかなった (2) 金融機関から借り入れた
(3) 医院継承したため、入会金以外はほとんど出費しなかった
(4) その他（ ）

23. 医療機関の後継者がありますか？

- (1) ある (2) ない (3) 未定

24. 何歳まで診療を行う予定ですか？

- (1) 60 歳 (2) 65 歳 (3) 70 歳 (4) 75 歳
(5) 80 歳 (6) 倒れるまで (7) 未定

25. 開業してから困ったこと、悩んだことはありますか？

- (1) 経済的なこと (2) 従業員の問題 (3) 自分の健康問題
(4) 家族の健康問題 (5) 家族関係 (6) 家事との両立
(7) 子供の問題 (8) その他 ()
- 差し支えなければ具体的にお聞かせください。

26. 開業してよかったと思うことをお聞かせください。

27. 女子医学生への助言・相談・臨床実習（プライマリーケア）の見学等に応じていただけますか？

- (1) はい (2) いいえ (3) どちらとも言えない

28. その他、ご意見がありましたらお書きください。

ご協力ありがとうございました。

(5) 開業にあたり最も心配していることは何ですか？（複数回答可）

- ① 資金 ② 従業員募集 ③ 患者確保
④ 自分の健康 ⑤ 家族の問題 ⑥ その他 ()

33. 勤務してから困ったこと、悩んだことはありますか？（複数回答可）

- (1) 経済的なこと (2) 職場の人間関係 (3) 自分の健康問題
 (4) 家族の健康問題 (5) 家族関係 (6) 家事との両立
 (7) 子供の問題 (8) その他 ()

差し支えなければ具体的にお聞かせください。

$$[\quad]$$

34. 勤務医でよかったと思うことをお聞かせください。

35. その他、ご意見がありましたらお書きください。

ご協力ありがとうございました。